

地球温暖化対策推進状況評価ツール  
(第二区分事業所)の手引き  
(第三計画期間)

2024年4月

東京都 環境局

## 目 次

第1部 ツール全体構成及び各シートの記入要領.....	1
第1章 地球温暖化対策推進状況評価ツール(第二区分事業所).....	1
1 全体構成 .....	1
2 各シートの記入要領及び記入例.....	3
メインシート.....	3
エネルギー使用量総括表シート.....	4
基本情報入力シート.....	5
取組状況入力シート(共通、工場他、上水道、下水道、廃棄物).....	6
調書シート.....	23
評価書シート.....	32
評価結果シート.....	33
重み係数シート.....	34
評価結果貼付用シート.....	34
第2章 地球温暖化対策推進状況評価ツール(第二区分事業所) 【複数エネルギー管理責任者用】.....	35
1 全体構成.....	35
2 各シートの記入要領及び記入例.....	36
複数管理者用メインシート.....	36
複数管理者用評価結果シート.....	37
複数管理者用評価書シート.....	38
3 地球温暖化対策推進状況評価書(第二区分事業所)【複数エネルギー管理責任者用】 作成上の注意点.....	39

## 第1部 ツール全体構成及び各シートの記入要領

### 第1章 地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）

#### 1 全体構成

地球温暖化推進状況評価ツール（第二区分事業所）は、認定申請事業所で評価書への入力が必要なシート（評価書入力用シート）、調書の作成に必要なシート（調書作成用シート）、評価結果が表示されるシート（評価結果確認用シート）の18シートから構成されている。評価ツールは、Microsoft Excel 2003で作成されている。

#### 入力用シート

- ・トップレベル事業所等の認定水準を満足しているか評価するために、認定申請事業所の概要、CO<sub>2</sub>削減対策の取組状況等について入力を行う。
- ・オレンジ色の欄については、直接、数値・コメントを入力する。数値を入力する場合は、半角英数字で入力する。
- ・黄色の欄については、予め用意されている選択肢の中から該当するものを選択する。
- ・白色の欄は、自動計算され入力される欄で、直接入力できない。
- ・入力値や選択肢をコピーして、他のセルに貼り付ける場合は、必ず「値の貼り付け」で行う。

#### 評価書入力用シート

#### 調書作成用シート

メインシート  
第1号様式その2

エネルギー使用量総括表  
第1号様式その3

取組状況入力シート  
第1号様式その14からその30

基本情報入力シート  
第1号様式その13

調書作成用シート  
第2号様式その1からその14

#### 評価結果確認用シート

- ・入力用シートの内容に基づいた評価結果を確認するためのシートである。
- ・認定申請事業所が、トップレベル事業所等の認定水準を満足しているかどうか、評価結果の確認が可能で、取組が優れている対策や、今後重点的に取組むべき対策等を確認することが可能である。

複数管理責任者用  
作成時のみ使用

評価書シート  
第1号様式その1

評価結果シート  
第1号様式その4からその12

重み係数シート

評価結果貼付用シート

## 調書作成用シート

### 1. 調書作成シートの構成

調書作成用シートは、設備機器に関する入力が必要なシートが14シートとなっている。

認定申請事業所全体の設備機器等の容量や台数等の把握、各対象評価項目の取組状況の程度を把握するために、入力が必要なシートである。

各欄は入力方法の違いで以下の通り色分けを行っている。

- ・オレンジ色の欄: 直接、文字又は数値を入力する。数値を入力する場合は、半角英数で入力する。
- ・黄色の欄: 予め用意されている選択肢の中から、該当するものを選択する。
- ・灰色の欄: 予め数式等が入力されているので、直接入力できない。

### 2. 作成方法

調書の左側部分の各欄は、基本情報に関わるもので、文字又は数値を入力又は選択する。調書の右側部分の各評価項目の欄は、評価項目に掲げられている省エネルギー対策(以下、「省エネ対策」という)が示されており、取組状況に応じて入力又は選択する。

- ・省エネ対策が導入されている場合であって、運用上も利用されているときは、「○」印を選択する。
- ・省エネ対策が導入されているが、運用上利用されていない場合は、「△」印を選択する。
- ・省エネ対策が導入されていない場合は、空欄のままとする。

調書作成用シート（第1シート）のスクリーンショット。表には、設備の名称、容量、台数、省エネ対策の有無などの項目が記載されている。色分けは、オレンジ色（入力欄）、黄色（選択欄）、灰色（数式欄）で示されている。

調書作成用シート（第14シート）のスクリーンショット。表には、省エネ対策の種類（照明器具、空調設備、給湯設備など）と、その導入状況（導入済み/未導入）に関する入力欄が記載されている。色分けは、オレンジ色（入力欄）、黄色（選択欄）、灰色（数式欄）で示されている。

～

### 調書入力シート 第2号様式その1からその14

### 3. 印刷における注意点

すべてのシートの印刷範囲の初期設定はA4横1枚となっている。設備機器等を数多く保有し、初期設定の印刷範囲で不足する場合は、改ページプレビューにし、ドラッグによって印刷範囲を必要な分だけ広げて印刷する。

なお、すべてのシートは白黒印刷される初期設定になっている。（提出は白黒印刷とする。）

## 2 各シートの記入要領及び記入例

地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）のファイルを開くと、メインシートが表示される。以降のシートの数式に影響を与えるため、必ずメインシートから入力を行うこと。

### 1 メインシート

報告の際には、プルダウンから「報告」を選択する。

報告 2021年度 認定年度 2020年度

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その2

評価・検証の概要		認定申請 2020年度		Ver.Ⅲ2018.0	
評価日	2017年6月1日				
評価者	会社名等				
	所属				
	氏名	東京 次郎			
検証日	2017年8月1日				
検証者	会社名等				
	所属				
	氏名	日本 花子			

事業所の概要		評価No.	
指定番号	100001		
地球温暖化対策事業者の氏名	東京環境工業株式会社 代表取締役社長 東京 太郎		
事業所の名称	東京環境工業 東京工場		
主たる用途	工場		
敷地面積	100,000 m <sup>2</sup>	延床面積又は事業所の床面積	100,000 m <sup>2</sup>
階数	2階	竣工年月	2000年4月
基準排出量	25,000 t-CO <sub>2</sub> /年	前年度CO <sub>2</sub> 排出量実績	22,500 t-CO <sub>2</sub> /年
		前年度一次エネルギー消費量実績	450,000 GJ/年
			2250 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
			4,500 MJ/m <sup>2</sup> ・年

用途別床面積		※ 床面積は各用途の共用部分を含んだ面積とし、複合用途の場合は全体共用面積を各用途の面積比で按分したものを各用途の面積に加えた数値とする。	
用途名	含まれる用途	床面積 [m <sup>2</sup> ]	床面積 比率
事務所	事務室、会議室、図書室、研究室等	6,500	6.5%
食堂・厨房	食堂、レストラン、喫茶店、厨房等	300	0.3%
電算室	電算室、サーバー室、コンピューター室、CPU室、マシン室等	200	0.2%
工場・プラント(空調)	工場、プラント、実験室、試験室等のうち、大半に空調設備のある建屋	30,000	30.0%
工場・プラント(換気)	工場、プラント、実験室、試験室等のうち、大半が換気設備で空調設備がない建屋、倉庫、エネルギーセンター等	60,000	60.0%
冷凍・冷蔵庫	冷凍庫、冷蔵庫、冷凍冷蔵倉庫等		
特殊空調室	クリーンルーム、恒温恒湿室、変温室、動物実験室、バイオハザード等	3,000	3.0%
合計		100,000	100.0%

エネルギー消費先比率		※ エネルギー使用量総括表での把握が難しいものについて、計量設備により把握した実績値がある場合は、採用値の欄に数値を記入してもよい。				
エネルギー消費先区分	主なエネルギー消費機器等	実測値 [GJ/年]	総括表 [GJ/年]	採用値 [GJ/年]	採用値	
ユーティリティ設備等	蒸気供給	36,488	36,488	36,488	6.0%	
	熱源	118,643	140,971	140,971	23.3%	
	冷却塔		4,578	4,578	0.8%	
	熱搬送		19,670	19,670	3.3%	
	コージェネ					
	受変電		18,592	18,592	3.1%	
	圧縮空気		3,660	3,660	0.6%	
	給排水		3,582	3,582	0.6%	
	給湯		40	4,444	0.7%	
	排水処理		2,372	2,372	0.4%	
建築設備	一般パッケージ空調		11,481	11,481	1.9%	
	一般空調機		8,666	8,666	1.4%	
	換気		16,874	16,874	2.8%	
	照明		40,279	40,279	6.7%	
	昇降機		335	335	0.1%	
	コンセント		6,223	6,223	1.0%	
	厨房		23	231	0.0%	
	燃料燃焼		31,016	31,016	5.1%	
	熱利用			5,859	5,859	1.0%
	電動力応用		121,450	142,514	142,514	23.6%
生産・プラント・特殊設備	電気加熱		22,775	22,775	3.8%	
	特殊パッケージ空調					
	特殊空調機		47,856	47,856	7.9%	
	冷凍・冷蔵					
	特殊排気		25,200	25,200	4.2%	
	純水供給		10,004	10,004	1.7%	
	輸送		342	342	0.1%	
	計		307,597	599,607	604,011	100.0%
	建物				4,000	0.7%

「2020」のように半角数字を入力する。

「報告」を選択すると認定年度の入力欄が表示される。

年月の入力欄は、「2012/4」のように、「年(西暦)/月」と入力する。

延床面積又は事業所の床面積の欄と数値が異なる場合、セルが赤表示(エラー)となる。

エネルギー使用量総括表の情報が集計され、数値が自動的に入力される初期設定されているが、エネルギー使用量総括表での把握が難しいもので、計量設備により把握した実測値又は推計値がある場合は、数値を直接入力することも可能。

1.3.3を評価するときは、必ず入力する。未入力の場合は、評価点が0点となる。

2 エネルギー使用量総括表(第1号様式その3)

- ・ 認定申請事業所のエネルギー使用設備について漏れなく入力する。ただし、設備容量等により評価の対象としない設備があるため、認定ガイドラインを参照し、入力する設備機器を決定する。
- ・ 設備のエネルギー使用量の実績値が不明な場合には、定格値と稼働時間等から推計した数値を入力する。
- ・ エネルギー使用量については、原則グロス(個々の設備による使用量実績の積み上げ)で入力する。

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その3)

No.	管理区分	設備・機器 種類・容量・台数等	エネルギー使用量				エネルギー 使用割合	エネルギー 消費先区分	調書
			燃料	電気	熱	合計			
			[GJ/年]	[MWh/年]	[GJ/年]	[GJ/年]			
事業所全体合計			127,186	35,237	-	-	-		
合計			119,912	49,688	16,307	621,169	100.0%		
1	第1工場	機械加工設備		4,967		48,480	7.8%	電動力応用 ○	
2	第1工場	乾燥炉 蒸気			3,378	3,378	0.5%	熱利用 ○	
3	第1工場	電気炉		676		676	1.1%	電気加熱 ○	
4	第1工場	パッケージ形空調機		556		5,151	0.8%	一般パッケージ空調 ○	
5	第1工場	給排気ファン		1,526		14,892	2.4%	換気 ○	
6	第1工場	照明器具		2,484		24,240	3.9%	照明 ○	
7	第1工場	オフィス機器		248		2,424	0.4%	コンセント ○	
8									
9	第2工場	塗装前処理工程 蒸気			2,481	2,481	0.4%	熱利用 ○	
10	第2工場	塗装前処理工程		532		5,189	0.8%	電動力応用 ○	
11	第2工場	電着塗装		1,329		12,973	2.1%	電気加熱 ○	
12	第2工場	塗装乾燥				31,016	5.0%	燃料燃焼 ○	
13	第2工場	塗装乾燥炉 通風装置他		1,152		11,244	1.8%	電動力応用 ○	
14	第2工場	塗装ブース		4,431		43,245	7.0%	電動力応用 ○	
15	第2工場	空気熱源ヒートポンプユニット 10台		996		9,721	1.6%	熱源 ○	
16	第2工場	空調用ポンプ		139		1,356	0.2%	熱搬送 ○	
17	第2工場	塗装ブース用空調機		1,772	8,862	26,160	4.2%	一般パッケージ空調 ○	
18	第3工場	塗装用排気ファン		532		5,189	0.8%	換気 ○	
19	第3工場	蓄熱燃焼式脱臭装置	25,200			25,200	4.0%	燃料燃焼 ○	
20	第2工場	一般空調用空調機		725	1,586	8,666	1.4%	一般パッケージ空調 ○	
21	第2工場	照明器具		1,242		12,120	2.0%	照明 ○	
22	第2工場	オフィス機器		124		1,212	0.2%	コンセント ○	
23									
24	第3工場	クリーンルーム用空調機		2,223		21,696	3.5%	特殊空調機 ○	
25	第3工場	生産装置		2,988		29,167	4.7%	電動力応用 ○	
26	第3工場	生産装置 電気炉		329		3,208	0.5%	電気加熱 ○	
27	第3工場	照明器具		124		1,212	0.2%	照明 ○	
28	第3工場	オフィス機器		12		120	0.0%	コンセント ○	
29									
30	ユーティリティ	貫流ボイラー 2t/h×5台	36,000	50					
31	ユーティリティ	直焚吸収冷温水機 450RT×3台	7,659	70					
32	ユーティリティ	ターボ冷凍機 450RT×1台		12,663					
33	ユーティリティ	冷却塔		469		4,578	0.7%	冷却塔 ○	
34	ユーティリティ	空調用ポンプ		1,876		18,314	2.9%	熱搬送 ○	
35	ユーティリティ	ガスエンジンコージェネ 400kW×2台	20,000	150		21,464	3.5%	コージェネ ○	
36	ユーティリティ	受変電設備ロス		1,905		18,592	3.0%	受変電 ○	
37	ユーティリティ	エアコンプレッサー 5台		375		3,660	0.6%	圧縮空気 ○	
38	ユーティリティ	給水ポンプ		367		3,582	0.6%	給排水 ○	
39	ユーティリティ	排水処理施設		243		2,372	0.4%	排水処理 ○	
40	ユーティリティ	純水供給装置		1,025		10,004	1.6%	純水供給 ○	
41	ユーティリティ	給排気ファン		118		1,152	0.2%	換気 ○	
42									
43	事務棟他	パッケージ形空調機		601		6,057	1.0%	一般パッケージ空調 ○	
44	事務棟他	給排気ファン				831	0.1%	換気 ○	
45	事務棟他	照明器具				2,707	0.4%	照明 ○	
46	事務棟他	パソコン・OA機器		293		2,466	0.4%	コンセント ○	
47	事務棟他	電気給湯器		4		40	0.0%	給湯 ○	
48	事務棟他	エレベーター		34		335	0.1%	昇降機 ○	
49	事務棟他	厨房機器・厨房用空調・換気	37	20		231	0.0%	厨房 ○	
50	事務棟他	フォークリフト		35		342	0.1%	輸送 ○	

単位が指定されているため、「排出量ガイドライン」等により指定の単位に換算して入力する。

コージェネレーション設備がある場合は、他人から供給された電気の使用量と、発電した電気の使用量の合計値を記入する。

コージェネレーションは、燃料消費量と補機類の電気消費を記入する。(発電量は記入しないよう注意する。)

調書から転記した行は、調書の欄に「○」の印を記入する。

入力した数値から自動計算がされるように設定されている。

入力した設備について、適切なエネルギー消費先を選択する。

3 基本情報入力シート(第1号様式その13)

- ・メインシートと調書を作成することで自動的に数値が表示される。オレンジの欄には直接数値を入力する。
- ・高効率機器以外の機器も含めた事業所内のすべての機器を対象として合計数値を入力する。
- ・各項目は、適用範囲補正係数の算出に使用しているため、認定申請事業所に該当する設備がある場合は、必ず入力する。
- ・該当する設備等がない場合は、その評価対象の欄は空欄のままとする。

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その13)

基本情報		適用範囲補正係数・評価項目	評価対象	数値・単位	
適用範囲補正係数に関する評価対象	1	熱源2次ポンプ、熱源1次ポンプ、冷却水ポンプ	熱源ポンプ総電動機出力	479.0 kW	
	2	II 1b.8	高効率熱源ポンプの導入	熱源2次ポンプ総電動機出力	111.0 kW
		II 1b.5	熱源2次ポンプ変流量制御の導入		
		II 1b.6	熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入		
		II 1b.13	熱源2次ポンプの末端差圧制御の導入		
		II 2a.22	熱源2次ポンプの送水圧力設定制御の導入		
	3	熱源1次ポンプ	熱源1次ポンプ総電動機出力	148.0 kW	
	4	II 1b.11	熱源1次ポンプ変流量制御の導入	冷却水ポンプ総電動機出力	220.0 kW
		II 1b.12	冷却水ポンプ変流量制御の導入		
	5	事務所外皮	事業所全体の建物外皮からの熱負荷	4,000 GJ/年	
	6	事務所外皮	事務所の建物外皮からの熱負荷	650 GJ/年	
	7	II 2a.5	ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入	事務所の床面積	3,000 m <sup>2</sup>
		II 2a.7	空調機の気化式加湿器の導入		
		II 2a.8	外気冷房システムの導入		
		II 2a.10	CO2濃度による外気量制御の導入		
		II 2a.13	全熱交換器の導入		
		II 2a.21	デシカント空調システムの導入		
		II 2b.6	照明の初期照度補正制御の導入		
		II 2b.7	照明の昼光利用照明制御の導入		
II 2b.9		タスク&アンビエント照明システムの導入			
II 2b.11		照明のセキュリティー運動制御の導入			
8		II 5a.1	燃料の供給量・空気を調整できるバーナー等の導入		
	II 5a.4	工業炉のリジェネレイティブバーナーの導入			
	II 5a.5	工業炉のリジェネレーター等の導入			
	II 5c.1	排ガスの廃熱回収設備の導入			
	II 5a.2	通風量・燃焼室内の圧力を調整できる通風装置の導入			
9	II 5a.2	通風量・燃焼室内の圧力を調整できる通風装置の導入	通風装置のある燃焼設備総定格燃料消費量	1,500 MJ/h	
	II 5e.4	生産プロセスにおける電動機の変速制御の導入	電力応用設備総電動機出力	10,000.0 kW	
11	II 5a.3	通風装置のインバータ制御の導入	通風装置総電動機出力	30.0 kW	
	II 5e.1	複数の電動機	複数の電動機を使用する設備総電動機出力	3,000.0 kW	
13	II 5e.1	生産プロセスにおける電動機の台数制御の導入	電気加熱設備総定格消費電力	2,000.0 kW	
	II 5e.5	電気溶接機、待機設備			
14	II 5e.5	電気溶接機	電気溶接機総定格消費電力	100.0 kW	
	II 5e.5	電気溶接機のインバータ制御の導入			
15	II 5e.7	成型機	成型機総定格消費電力	30.0 kW	
	II 5e.7	高効率クレーンの導入			
17	II 5e.7	クレーン	クレーン総電動機出力	30.0 kW	
	II 5e.7	高効率クレーンの導入			
18	II 5e.8	生産ポンプ	生産プロセス用ポンプ総電動機出力	100.0 kW	
	II 5e.8	生産プロセスにおける高効率ポンプの導入			
19	II 5e.9	生産プロセスにおける高効率ブロワ・ファンの導入	生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力	300.0 kW	
	II 5e.15	ブロワのインレットベーン制御の導入			
	II 5e.16	ブロワの動力伝達装置による減速の導入			
19	待機設備	待機状態のある電気使用設備総定格消費電力	8,000.0 kW		

メインシートと調書を作成することで、数値は自動的に入力される。

事業所において集計を行い、数値を記入する。

適用範囲補正係数

熱源2次ポンプ	No.2	111 kW	ノ.1	479 kW	=	0.232	
熱源1次ポンプ	No.3	148 kW	ノ.1	479 kW	=	0.309	
冷却水ポンプ	No.4	220 kW	ノ.1	479 kW	=	0.459	
事務所外皮	No.6	650 GJ/年	ノ.5	4,000 GJ/年	=	0.163	
事務室	No.7	3,000 m <sup>2</sup>		100,000 m <sup>2</sup>	=	0.03	
通風装置燃料	No.9	1,500.0 kW	ノ.8	2,000.0 kW	=	0.75	
通風装置電気	No.11	30.0 kW	ノ.10	10,000.0 kW	=	0.003	
複数電動機	No.12	3,000.0 kW	ノ.10	10,000.0 kW	=	0.3	
電気溶接機	No.14	100.0 kW	ノ.13	2,000.0 kW	=	0.05	
成型機	No.15	30.0 kW	ノ.10	10,000.0 kW	=	0.003	
クレーン	No.16	30.0 kW	ノ.10	10,000.0 kW	=	0.003	
生産ポンプ	No.17	100.0 kW	ノ.10	10,000.0 kW	=	0.01	
生産ブロワ等	No.18	300.0 kW	ノ.10	10,000.0 kW	=	0.03	
待機設備	No.19	8,000.0 kW	(ノ.10)	10,000.0 kW	+ No.13 2,000.0 kW	=	0.68

メインシートと調書を作成することで、適用範囲補正係数が自動的に算定される。

4 取組状況入力シート(第1号様式その14からその30)

- ・ 認定申請事業所における地球温暖化対策の取組状況の程度を、取組状況の程度欄又は評価内容の表中に入力する。評価項目毎に、取組状況の程度に応じた評価点が、評価点の欄に表示される。
- ・ 評価項目ごとの枠外にある記号の内、◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を示す。

第1号様式その14

黄色:ブルダウから取組状況を選択する。

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その14

地球温暖化対策推進に関する評価項目と取組状況(第二区分事業所)			取組状況の程度	評価点
No.	評価項目	評価内容		
<b>I. 一般管理事項</b>				
<b>1. CO2削減推進体制の整備</b>				
◎	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	CO2削減推進会議が設置され、どの程度の頻度で実施されているか。	月1回以上 1
◎	1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備	PDCA管理サイクル(計画・実施・確認・処置)の実施体制がどの程度整備されているか。	計画・実施・確認のみ 0.8
○	1.3	ISO14001の取得	ISO14001が取得されているか。	取得 1
○	1.4	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度の導入	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度が導入されているか。	導入 1
+	1.5	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞等の表彰	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞[省エネ事例部門]等で表彰されているか。	表彰無し 0
<b>2. 図面、管理標準等の整備</b>				
◎	2.1	図面、改修履歴等の整備	竣工図、機器完成図、改修履歴がわかる図面等が、どの程度整備されているか。	概ね80%以上は整備 1
◎	2.2	設備台帳等の整備	エネルギー使用機器の管理のために、設備台帳等が、どの程度整備されているか。	概ね80%以上は整備 1
◎	2.3	管理標準等の整備	管理標準及び運転操作マニュアルが整備されているか。	整備 1
<b>3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録</b>				
◎	3.1	エネルギー管理システムの導入	ユーティリティ設備(蒸気供給、熱源、コージェネ)のエネルギー使用量を総合的に管理できるエネルギー管理システムが導入されているか。	エネルギー消費分析・管理 1
◎	3.2	電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	電力負荷状況、発電状況並びに各変圧器の需要率、負荷率及び不均衡率の把握に必要な計測・計量設備が、一次側の電圧が400V以上の変圧器全数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用 1
◎	3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	エネルギー消費先別の細目の電力量・燃料消費量・熱量の把握に必要な計測・計量設備による一次エネルギー実測値が、事業所全体のエネルギー消費量に対して、どの程度の割合になっているか。	50%以上70%未満 0.8
◎	3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	部署別、工程別、設備別に系統を分割し、その系統別の電力量・熱量・蒸気量・圧縮空気量を含む使用量の把握に必要な計測・計量設備が、電力量は動力盤及び分電盤総面数、熱量、蒸気量及び圧縮空気量は全系統数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0.7
			電力量の系統別の細分化	80%以上に採用 1
			熱量(冷温水)の系統別の細分化	40%以上80%未満に採用 0.5
			蒸気量の系統別の細分化	40%未満に採用又は採用無し 0
			圧縮空気量の系統別の細分化	40%未満に採用又は採用無し 0
◎	3.5	管理日報・月報・年報の作成	管理日報、月報及び年報の作成が実施されているか。	実施 1
○	3.6	ユーティリティ設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	ユーティリティ設備(蒸気供給、熱源、コージェネ及び圧縮空気)のエネルギー使用量や運転効率等の分析に必要な電力量・燃料消費量・熱量・流量・温度・蒸気量・圧縮空気量・給水量等の計測・計量設備が、設備区分の数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1又は3/4に採用 1
<b>4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理</b>				
◎	4.1	生産工程・処理工程のエネルギー管理	生産工程・処理工程の操作状況に応じたエネルギー使用状況の管理や分析が実施されているか。	実施 1
◎	4.2	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	エネルギーマネジメントシステム等のデータを活用し、電力及び熱のピーク負荷の数値化等によるエネルギー消費の特性、建物全体のエネルギー消費原単位算出及び類似の建物との比較により、省エネルギー状況の管理が実施されているか。	実施 1
◎	4.3	CO2排出量の管理	事業所全体のCO2排出量及び原単位の管理がどの程度の頻度で実施されているか。	月1回以上 1
◎	4.4	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施	2019年度までのCO2排出量削減に向けた目標を設定し、CO2削減対策項目ごとの具体的な計画の立案及び実績の集約・評価がどの程度実施されているか。	全て実施 1
◎	4.5	CO2削減対策の啓発活動の実施	空調、照明等の使用時間短縮、事務用機器・パソコン等の省電力化、冷凍冷蔵庫・ブラインド等の効率運用などCO2削減対策に関する啓発活動が実施されているか。	実施 1
◎	4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施	エネルギーマネジメントシステム等のデータの活用等により問題点を抽出し、優先的に改善すべき課題の決定、具体的な対策・計画及びチューニングなどの改善策の立案と実施、その効果の検証がどの程度実施されているか。	全て実施 1
○	4.7	ユーティリティ設備の運転解析の実施	ユーティリティ設備(蒸気供給、熱源、コージェネ及び圧縮空気)のエネルギーデータの運転解析により、需要パターンに応じた機器の選択と稼働率の選定等、運用実態に即した運転計画と運転効率の検証が、設備区分の数(対象設備が無い場合を除く。)に対して、どの程度の割合で実施されているか。	2/3又は1/2で実施 0.8
+	4.8	従業員等への環境・エネルギー情報提供システムの導入	イントラネット等を介して、従業員等がいつでも環境・エネルギー情報を見ることが出来る状況を提供する見える化のシステムが導入され、どの程度の頻度でデータが更新されているか。	月1回程度 0.5
<b>5. 保守・点検の管理</b>				
◎	5.1	保守・点検計画の策定及び実施	燃焼設備及び動力設備の保守・点検計画の策定及び計画に基づいた保守・点検の実施がどの程度実施されているか。	全て実施 1

※ 枠外の◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を示す。

加点項目は採用又は実施している場合のみ記入する。

白色:メインシートの一次エネルギー実測値を入力することで、自動的に入力される。

工程ごとのエネルギー消費分析・管理



第1号様式その15

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その15

II. 設備及び建物の性能に関する事項

1. ユーティリティ設備等の省エネルギー性能

※ 採用したシステム及び制御手法は、運用上も活用している場合において評価する。

a. 蒸気供給設備

No.	評価項目	評価内容						取組状況の程度		評価点
		設置年度	ボイラー機種	ボイラー容量 [kW]	定格エネルギー消費量	エネルギー種別	台数	年間熱製造量実績 [GJ/年]	ボイラー効率	
◎ 1a.1	高効率蒸気ボイラーの導入	高効率蒸気ボイラーが、全ての蒸気ボイラー(地域冷暖房受入を含む。)に対して、どの程度導入されているか。								1
		1	2014	蒸気ボイラー	1,000	4,000.0	[MJ/h]ガス	1	0.90	1
		2								
		3								
		4								
		5								
		6								
		7								
		8								
		9								
		10								
		11								
		12								
		13								
		14								
		15								
		16								
		17								
		18								
		19								
		20								
		21								
		22								
		23								
		24								
		25								
		26								
		27								
		28								
		29								
		30								
◎ 1a.2	蒸気ボイラーのエコノマイザー又はエアヒーターの導入	導入時にエコノマイザーが未設置であった蒸気ボイラーの全てに、追加的なエコノマイザーが導入されているか。						対象機器無し		-
◎ 1a.3	蒸気弁・フランジ部の断熱	蒸気弁及びフランジ部が、どの程度断熱されているか。						ボイラー回り及び装置回り		1
◎ 1a.4	蒸気ドレンタンクの断熱	全ての蒸気ドレンタンクが断熱されているか。						採用		1
◎ 1a.5	蒸気ボイラーの台数制御の導入	蒸気ボイラーの台数制御(オペレーターによる制御を含む。)が導入されているか。						採用		1
○ 1a.6	蒸気ドレン回収設備の導入	蒸気ドレン回収設備が、定格蒸気消費量(直接利用するものを除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。						80%以上に採用		1
○ 1a.7	蒸気ドレンのクローズド回収方式の導入	蒸気ドレン回収にクローズド回収方式が、定格蒸気消費量(直接利用するものを除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。						80%以上に採用		1
○ 1a.8	蒸気ボイラーの小型分散システムの導入	蒸気ボイラーの小型分散システムが導入されているか。						採用		1
+ 1a.9	省エネ型スチームトラップの導入	使用用途に適した省エネ型スチームトラップが、スチームトラップの全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。						30%以上70%未満に採用		0.5
+ 1a.10	蒸気ボイラーの押込送風機インバータ制御の導入	導入時に押込送風機インバータ制御が未対応であった蒸気ボイラーの全てに、追加的な押込送風機インバータ制御が導入されているか。						採用		1
+ 1a.11	不要蒸気配管の撤去・蒸気配管ルート・サイズの変更	放熱ロス防止のために、不要蒸気配管の撤去、蒸気配管のルート又はサイズの変更のいずれかが行われているか。						採用		1
+ 1a.12	圧力差タービンの導入	高圧蒸気ラインと低圧蒸気ラインがある場合、圧力差タービンが導入されているか。						採用無し		0
+ 1a.13	フラッシュ蒸気利用設備の導入	フラッシュ蒸気利用設備が導入されているか。						採用無し		0
+ 1a.14	蒸気減圧エネルギー動力回収設備の導入	蒸気減圧エネルギー動力回収設備が導入されているか。						採用無し		0
+ 1a.15	アキュムレーターの導入	アキュムレーターが導入されているか。						採用		1
+ 1a.16	負荷に適した容量のバーナーへの変更	バーナー容量が過大な場合、負荷に適した容量のバーナーに変更されているか。						採用無し		0

蒸気ボイラー  
調書を作成することで、  
自動的に入力される。

対象設備が無い場合は、  
ブルダウンより除外の  
選択肢を選択することで、  
評価の対象外とすることができる。

黄色:ブルダウンから  
取組状況を選択する。

第1号様式その16

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その16

b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度		評価点						
			冷熱源	温熱源							
◎	1b.1 高効率熱源機器の導入	高効率熱源機器が、全ての熱源機器(地域冷暖房受入を含む。)に対して、どの程度導入されているか。			0.651						
					0.632						
					0.689						
		種別	設置年度	冷熱源機種	熱源容量 [kW]	定格エネルギー消費量	エネルギー種別	台数	年間熱製造量実績 [GJ/年]	定格COP ※1効率	
		1	冷熱源	2000	直焚吸収冷水機	1,582	4,612.5	[MJ/h]ガス	2	1.23	0.488
		2	冷熱源	2014	直焚吸収冷水機	1,582	4,221.0	[MJ/h]ガス	1	1.35	0.997
		3	冷熱源	2000	空気熱源ヒートポンプユニット	87	28.0	[kW]電気	10	3.11	0.137
		4	冷熱源	2000	ターボ冷凍機	1,582	254.0	[kW]電気	1	6.23	0.827
		5									0
		6									0
		7									0
		8									0
		9									0
10									0		
11									0		
12									0		
1	温熱源	2000	直焚吸収冷水機	1,324	5,526.0	[MJ/h]ガス	2	0.86	0.683		
2	温熱源	2014	直焚吸収冷水機	1,291	5,310.0	[MJ/h]ガス	1	0.88	0.914		
3	温熱源	2000	空気熱源ヒートポンプユニット	90	27.0	[kW]電気	10	3.33	0.384		
4									0		
5									0		
6									0		
7									0		
8									0		
9									0		
10									0		
11									0		
12									0		
○	1b.2 水搬送経路の密閉化	蓄熱槽の2次側で実揚程10m以上の水搬送経路が密閉化されているか。	密閉式回路のみ		1						
○	1b.3 熱源の台数制御の導入	熱源の台数制御が導入されているか。	採用		1						
○	1b.4 冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御の導入	冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御が、冷却塔ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し		0						
○	1b.5 熱源2次ポンプ変流量制御の導入	熱源2次ポンプの台数制御及びインバータによる変流量制御が、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用		1						
○	1b.6 熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入	熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプが、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用		1						
+	1b.7 高効率冷却塔の導入	高効率冷却塔が、冷却塔(エアコンプレッサー用及び生産プロセス用のものを含む。)ファン総電動機出力又は散水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	83%に採用		0.834821429						
省エネ形		採用無し		0							
モータ直結形ファン		採用無し		0							
ファン永久磁石(IPM)モータ		採用無し		0							
ファンプレミアム効率(IE3)モータ		採用無し		0							
ファン高効率(IE2)モータ		採用無し		0							
散水ポンプ永久磁石(IPM)モータ		採用無し		0							
散水ポンププレミアム効率(IE3)モータ	採用無し		0								
散水ポンプ高効率(IE2)モータ	採用無し		0								
+	1b.8 高効率熱源ポンプの導入	高効率熱源ポンプが、熱源ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	100%に採用		1						
永久磁石(IPM)モータ		採用無し		0							
プレミアム効率(IE3)モータ		採用無し		0							
高効率(IE2)モータ		採用無し		0							
+	1b.9	熱媒が水の場合、熱搬送設備の設計送水温度差がどの程度か。	$\Delta t = 8^\circ\text{C}$ 以上10°C未満		0.8						
+	1b.10	熱源機器出口設定温度の遠方制御が導入されているか。	採用無し		0						
+	1b.11	熱源1次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御が、熱源1次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し		0						
+	1b.12	冷却水ポンプ変流量制御の導入	5%未満に採用又は採用無し		0						
+	1b.13	熱源2次ポンプの末端差圧制御等の導入	5%未満に採用又は採用無し		0						
+	1b.14	熱交換器の断熱	40%以上80%未満に採用		0.5						
+	1b.15 蓄熱システムの導入	蓄熱システムがどの程度導入されているか。	形式	蓄熱容量[m <sup>3</sup> ]	蓄熱量[MJ]	年間蓄熱量実績[GJ/年]					
+	1b.16	冷却塔ファンインバータ制御の導入	5%未満に採用又は採用無し		0						
+	1b.17	フリークーリングシステムの導入	採用無し		0						
+	1b.18	冷却水ろ過冷却リサイクルシステムの導入	採用		1						
+	1b.19	冷却水ON/OFF制御システムの導入	採用無し		0						
+	1b.20	中温冷水利用システムの導入	採用無し		0						
+	1b.21	統合熱源制御システムの導入	採用無し		0						
+	1b.22	熱源2次ポンプの送水圧力設定制御の導入	5%未満に採用又は採用無し		0						

熱源機器  
調書を作成することで、自動的に入力される。調書の10行分しか表示されないが、評価点は調書に入力したものが全て自動計算される。

白色: 調書を入力することで自動的に入力される。

該当する設備がある場合は、選択及び入力する。

第1号様式その17

第1号様式（優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン（第二区分事業所））その17

e. コージェネレーション設備											
No.	評価項目	評価内容						取組状況の程度		評価点	
+	1c.1 高効率コージェネレーションの導入	高効率コージェネレーションが、全てのコージェネレーションに対して、どの程度導入されているか。						115.2	OK	0.859	
		年間平均発電効率	39.3%	年間平均排熱利用率	30.0%	年間平均総合効率					
		コージェネ機種	発電容量 [kW]	定格エネルギー消費量	エネルギー種別	台数	定格発電効率	年間燃料消費量 [GJ/年]	年間発電量実績 [MWh/年]		年間排熱利用量 [GJ/年]
		ガスエンジン	400	4,000.0	[MJ/h]ガス	2	40.0%	1,000	110		300
		ガスタービン	500	4,500.0	[MJ/h]ガス	1	44.4%	100	10		30
		1,300	12,500	-	3	-	1,100	120	330		
<p>該当する設備がある場合は、選択及び入力する。</p>											
d. 受変電設備、配電設備											
No.	評価項目	評価内容						取組状況の程度		評価点	
○	1d.1 高効率変圧器の導入	高効率変圧器が、600Vを超え7,000V以下の総変圧器容量に対して、どの程度の割合で導入されているか。						54%に採用	0.535714286	0.939	
								トップランナー変圧器2014	0.321428571		
								トランスレギュレーター	0.142857143		
◎	1d.2 力率改善制御システムの導入	力率改善制御システムが導入されているか。						採用	1		
○	1d.3 デマンド制御システムの導入	デマンド制御システムが導入されているか。						採用	1		
+	1d.4 低圧動力回路への力率改善コンデンサの導入	力率改善コンデンサが低圧動力回路に導入されているか。						採用無し	0		
+	1d.5 400V配電方式の導入	主たる動力設備に400V配電方式が導入されているか。						採用	1		
+	1d.6 低負荷変圧器の統合	低負荷率の変圧器がある場合、低負荷変圧器が導入されているか。						採用無し	0		
+	1d.7 変圧器の台数制御の導入	変圧器の台数制御が導入されているか。						採用無し	0		
+	1d.8 大型変圧器の冷却設備制御の導入	冷却設備がある変圧器にON-OFF制御又は台数制御が導入されているか。						採用無し	0		
+	1d.9 高効率UPSの導入	変換効率90%以上の高効率UPSが導入されているか。						採用無し	0		
e. 圧縮空気供給設備											
No.	評価項目	評価内容						取組状況の程度		評価点	
○	1e.1 高効率エアコンプレッサーの導入	高効率エアコンプレッサーが、エアコンプレッサー総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。						55%に採用	0.545454545	0.235	
								インバータ制御			
								永久磁石(IPM)モータ	0		
								プレミアム効率(IE3)モータ	0		
								高効率(IE2)モータ	0		
								2段圧縮方式	0		
								インバータ制御冷却ファン	0		
								増風量制御方式	0		
								圧縮機・モータ直結構造	0		
								複数台圧縮機制御	0		
○	1e.2 エアコンプレッサーの台数制御の導入	エアコンプレッサーの台数制御が導入されているか。						95%以上に採用	1	0	
								吐出圧力制御	0%未満に採用又は採用無し		
○	1e.3 コンプレッサー室への換気設備の導入	コンプレッサー室へ換気設備が導入されているか。						採用	1		
+	1e.4 圧縮空気配管のループ配管化	圧縮空気配管距離が長くなる場合、圧縮空気配管のループ配管化が導入されているか。						採用無し	0		
+	1e.5 エアコンプレッサーの分散化	圧縮空気配管距離が長くなる場合、エアコンプレッサーの分散化が導入されているか。						採用	1		
+	1e.6 圧縮空気配管の高圧ライン/低圧ラインの系統分割	圧縮空気供給圧力の高圧と低圧が混在する場合、圧縮空気配管の高圧ライン/低圧ラインの系統分割が導入されているか。						採用無し	0		
+	1e.7 ブースター方式の導入	圧縮空気供給圧力の高圧と低圧が混在する場合、ブースター方式が導入されているか。						採用無し	0		
+	1e.8 吸気冷却システムの導入	井水、冷却水などによる吸気冷却システムが導入されているか。						採用無し	0		
+	1e.9 コンプレッサーの排熱回収システムの導入	コンプレッサーの排熱回収システム(排熱による暖房利用)が導入されているか。						採用無し	0		
+	1e.10 バージ制御装置の導入	露点温度によりバリエア(再生空気)量を低減するバージ制御装置が導入されているか。						採用無し	0		
+	1e.11 エアコンプレッサー排熱の局所排気システムの導入	エアコンプレッサー排熱の局所排気システムが導入されているか。						採用	1		
+	1e.12 フィルタの低圧損化	低圧損フィルタの導入又はファイナルフィルタの削減が行われているか。						採用無し	0		
+	1e.13 高効率ドライヤーの導入	高効率ドライヤーが導入されているか。						採用無し	0		
f. 給水・給湯設備、排水処理設備											
No.	評価項目	評価内容						取組状況の程度		評価点	
○	1f.1 高効率給水ポンプの導入	高効率給水ポンプが、加圧給水ポンプユニット総電動機出力又は給水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。						100%に採用	1	0.9	
								推定末端圧一定インバータ制御ポンプユニット	0		
								永久磁石(IPM)モータ	0		
								プレミアム効率(IE3)モータ	0		
+	1f.2 排水処理用の高効率ポンプ・ブロワの導入	排水処理用の高効率ポンプ・ブロワが、排水処理用ポンプ・ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。						50%に採用	0.5	0.711	
								永久磁石(IPM)モータ	0		
						プレミアム効率(IE3)モータ	0				
						高効率(IE2)モータ	0.88888889				
+	1f.3 排水再利用システム等の導入	雨水利用システム、空調ドレン利用システム、中水利用システム等の排水再利用システム、又は再生水、工業用水、湧水等の雑用水利用システムが導入されているか。						採用	1		
+	1f.4 微細気泡散気管の導入	微細気泡散気管が導入されているか。						採用無し	0		
+	1f.5 ばっ気用ブロワの変風量制御の導入	ばっ気用ブロワの台数制御又はインバータによる変風量制御が導入されているか。						採用無し	0		
+	1f.6 ばっ気用ブロワの溶存酸素濃度制御の導入	ばっ気用ブロワの溶存酸素濃度(DO)による送風量制御が導入されているか。						採用無し	0		
+	1f.7 高効率給湯ヒートポンプユニットの導入	中央給湯方式の熱源機器がある場合、給湯ヒートポンプユニットが導入されているか。						採用無し	0		

白色：調査を入力することで自動的に入力される。  
黄色：プルダウンから取組状況を選択する。

※ 上水道施設、下水道施設は評価対象外とする。

第1号様式その18

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その18

2. 建築設備の省エネルギー性能		※ 採用したシステム及び制御手法は、運用上も活用している場合において評価する。	
a. 空調・換気設備			
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度 評価点
◎	2a.1 高効率パッケージ形空調機の導入	高効率パッケージ形空調機が、パッケージ形空調機総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1
		高効率機器	通年エネルギー消費効率 APF 採用無し 0 冷暖房平均COP 16%に採用 0.16 インバータ制御機器 84%に採用 0.84 高効率冷媒(R410A) 84%に採用 0.84 GHP+EHP一体型空調システム 84%に採用 0.84 冷媒蒸発温度自動変更機能 84%に採用 0.84 設置方法 冷媒配管の長さ(片道) 0m以上30m未満 1 屋外機のショートサーキット無し 52%に採用 0.52 屋外機の散水システム 100%に採用 1
		白色:調書を入力することで自動的に入力される。	床室数に対して 80%以上に採用 1 20%に採用 0.304 20%に採用 0.203804348 20%に採用 0.203804348 採用無し 0 プレミアム効率(IE3)モータ 採用無し 0 高効率(IE2)モータ 35%に採用 0.35326087 橋本管熱交換器 採用無し 0
		黄色:プルダウンから取組状況を選択する。	
○	2a.2 電気室・エレベーター機械室の温度制御の導入	電気室及びエレベーター機械室の温度制御が、どの程度の割合で導入されているか。	1
+	2a.3 高効率空調機の導入	高効率空調機が、空調機ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0.304
+	2a.4 高効率空調・換気用ファンの導入	高効率空調・換気用ファンが、空調・換気用ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0.357142857
+	2a.5 ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入	ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1
+	2a.6 空調機の変風量システムの導入	室内温度又は送気温度で空調機ファンのインバータを制御する変風量システムが、空調機ファン(特殊空調設備用を除く)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0.5
+	2a.7 空調機の気化式加湿器の導入	空調機の気化式加湿器が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1
+	2a.8 外気冷房システムの導入	外気冷房システムが、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1
+	2a.9 局所冷暖房設備の導入	高発熱領域に対する局所冷暖房設備又は大空間における局所冷暖房設備が導入されているか。	0
+	2a.10 CO2濃度による外気量制御の導入	CO2濃度による外気量制御が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0
+	2a.11 ファンコイルユニットの比例制御の導入	ファンコイルユニットの比例制御が、ファンコイルユニット全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0
+	2a.12 空調の最適起動制御の導入	空調の最適起動制御が、全空調機台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0
+	2a.13 全熱交換器の導入	全熱交換器が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0
+	2a.14 大温度差送風空調システムの導入	低温送風による大温度差送風空調システムが、空調機ファン(特殊空調設備用を除く)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0
+	2a.15 放射冷暖房空調システムの導入	放射冷暖房空調システムが導入されているか。	0
+	2a.16 置換換気システムの導入	置換換気システムが導入されているか。	1
+	2a.17 空調機の間欠運転制御の導入	空調機の間欠運転制御が、空調機ファン(特殊空調設備用を除く)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0
+	2a.18 高効率厨房換気システムの導入	高効率厨房換気システム(置換換気、給排気フード又は厨房排気の変風量制御)が導入されているか。	0
+	2a.19 厨房外調機・ファンの風量モード切替制御の導入	厨房外調機・ファンの風量モード切替制御が導入されているか。	0
+	2a.20 人感センサーによる換気制御の導入	便所の人感センサーによる換気制御が、主たる便所に導入されているか。	0
+	2a.21 デシカント空調システムの導入	デシカント空調システムが導入されているか。	0
+	2a.22 ファンのインバータによる手動調整の導入	ファンの手動調整用インバータが、ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0
+	2a.23 気流感創出ファン・サーキュレーションファンの導入	事務室に気流感創出ファン等、又は大空間にサーキュレーションファンが導入されているか。	0
b. 照明設備			
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度 評価点
◎	2b.1 高効率照明器具の導入	高効率照明器具が、照明総消費電力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0.8
		高効率ランプ 70%以上95%未満に採用 0.8 高反射率板 5%未満に採用又は採用無し 0	
○	2b.2 高輝度型誘導灯・蓄光型誘導灯の導入	高輝度型誘導灯又は蓄光型誘導灯が、誘導灯総器具数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1
○	2b.3 照明のゾーニング制御の導入	照明の点滅区分の細分化と、主たる廊下、エントランスホール等の間引きによるゾーニング制御がどの程度導入されているか。	1
○	2b.4 照明の人感センサーによる入室検知制御の導入	照明の人感センサーによる入室・在席検知制御が、主たる階段室、便所、湯沸室等に対して、どの程度導入されているか。	0
+	2b.5 照明の局所制御の導入	照明器具ごとのスイッチ等による照明の局所制御が、事務室、廊下、便所又は湯沸室に対して、どの程度導入されているか。	0.8
+	2b.6 照明の初期照度補正制御の導入	照明の初期照度補正制御が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1
+	2b.7 照明の昼光利用照明制御の導入	照明の昼光利用照明制御が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1
+	2b.8 照明のタイムスケジュール制御の導入	照明のタイムスケジュール制御が、主たる居室、廊下等の共用部に対して、どの程度導入されているか。	0.5
+	2b.9 タスク&アンビエント照明システムの導入	タスク&アンビエント照明システムが、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	0
+	2b.10 照明の明るさ感知による自動減制御の導入	照明の明るさ感知による自動減制御が、窓のある主たるエントランスホール、廊下、便所等に導入されているか。	0
+	2b.11 照明のセキュリティー連動制御の導入	照明のセキュリティー連動制御が、事務室の床面積に対して、どの程度導入されているか。	0
+	2b.12 誘導灯の消灯制御の導入	誘導灯の消灯制御が導入されているか。	0

第1号様式その19

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その19

c. 衛生設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	2c.1 大便器の節水器具の導入	大便器の節水器具(10ℓ/回以下)又は超節水器具(6ℓ/回以下)が、主たる便所の大便秘器数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用	0.8
+	2c.2 省エネ型便座又は洗浄便座のスケジュール制御の導入	省エネ型便座又は洗浄便座の夜間電源停止等のスケジュール制御が、主たる便所の洗浄便座数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用	1
+	2c.3 洗面器の自動水栓の導入	洗面器の自動水栓が、主たる便所の洗面器数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用	1
+	2c.4 便所への擬音装置の導入	便所に擬音装置が、主たる便所の大便秘器数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用	1
+	2c.5 自然冷媒ヒートポンプ給湯器の導入	自然冷媒ヒートポンプ給湯器が導入されているか。	採用無し	0
+	2c.6 潜熱回収給湯器の導入	潜熱回収給湯器が導入されているか。	採用無し	0

d. 昇降機設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	2d.1 エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式の導入	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式 動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
○	2d.2 エレベーターの群管理制御の導入	エレベーターの群管理制御が、複数台設置し に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
○	2d.3 エレベーターかご内の照明、ファン等の不使用時 停止制御の導入	エレベーターかご内の照明、ファン等の不使用時 停止制御が、全エレベーター台数に 対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	0.8
+	2d.4 エレベーターの電力回生制御の導入	エレベーターの電力回生制御が、エレベーター 総電動機出力に対して、どの程度の割合 で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	0.5

白色: 調書を入力することで自動的に入力される。  
黄色: プルダウンから取組状況を選択する。

e. その他				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	2e.1 グリーン購入に適合商品のオフィス機器の導入	グリーン購入に適合商品のオフィス機器が、オフィス機器全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用	1
○	2e.2 省エネ型自動販売機又は自動販売機のスケジューリング制御の導入	省エネ型自動販売機又は自動販売機のスケジュール制御が、自動販売機全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用	1
+	2e.3 高効率厨房機器の導入	厨房換気量を低減するために、電化厨房又は集中排気型ガス厨房が導入されているか。	採用無し	0

### 3. 建物の省エネルギー性能

#### a. 建物外皮

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
+	3a.1 高性能な建物外皮の導入	主たる事務所の建物外皮性能(PAL又はPAL*)が基準値に対してどの程度削減されているか。		0.8
年間熱負荷係数 PAL*			削減率2.5%未満又は計算無し	0
年間熱負荷係数 PAL			削減率20%以上30%未満	0.8
+	3a.2 隙間風対策の導入	空調空間と非空調空間の境にある主たる動線の全ての出入口に、風除室又はエアカーテン等の隙間風対策が導入されているか。	採用	1
+	3a.3 ブラインドの日射制御及びスケジュール制御の導入	主たる事務室のブラインドに日射制御又はスケジュール制御がどの程度導入されているか。	採用無し	0
+	3a.4 屋上緑化の導入	屋上緑化が導入されているか。	採用無し	0
+	3a.5 壁面緑化の導入	壁面緑化又は緑化によるひさしが導入されているか。	採用無し	0
+	3a.6 遮熱塗料塗布・遮熱フィルムの導入	開口部に対して遮熱塗料塗布又は遮熱フィルムが導入されているか。	採用無し	0
+	3a.7 屋根への遮熱塗装の導入	主たる屋根に対して遮熱塗装が導入されているか。	採用無し	0

#### b. 自然エネルギーの利用

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
+	3b.1 自然採光を利用したシステムの導入	自然採光を利用したシステムが導入されているか。	採用無し	0
+	3b.2 自然通風を利用したシステムの導入	自然通風を利用したシステムが導入されているか。	採用無し	0
+	3b.4 年間を通して安定した地中温度を利用したシステムの導入	クールトレンチ、ヒートトレンチその他の年間を通して安定した地中温度の利用のための措置が導入されているか。	採用無し	0

### 4. 再生可能エネルギー・未利用エネルギー

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	4.1 太陽光発電システムの導入	太陽光発電システムがどの程度導入されているか。	30 kW以上採用	1
		エネルギー利用形態 電力系統連系有り	発電容量 60 kW	
+	4.2 再生可能エネルギー又は未利用エネルギーを利用するシステムの導入	再生可能エネルギー又は未利用エネルギーを利用するシステムがどの程度導入されているか。	年間発電量 60 MWh/年	0.8
			電力換算で50kW以上採用 年間依存率 0.007%	
			システム名称 太陽熱利用システム	

該当する設備がある場合は、選択及び入力する。

## 第1号様式その20

第1号様式（優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン（第二区分事業所））その20

Ⅲ. 設備及び事業所の運用に関する事項					
1. ユーティリティ設備等の運用管理					
a. 蒸気供給設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	1a.1	蒸気ボイラーの空気比の管理	全ての蒸気ボイラーの空気比が、どの程度に管理されているか。	自標空気比	1
◎	1a.2	蒸気ボイラーの設定圧力の適正化	全ての蒸気ボイラーの設定圧力が蒸気使用端の必要圧力に対して適正に調整されているか。	実施	1
◎	1a.3	部分負荷時の蒸気ボイラー運転の適正化	部分負荷時の負荷に応じた蒸気ボイラー運転の適正化が、蒸気ボイラー群系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	50%以上80%未満で実施	-
◎	1a.4	非使用エリアの蒸気供給バルブの閉止	非使用エリアの蒸気供給バルブが閉止されているか。	実施	1
◎	1a.5	非使用時間帯の蒸気ボイラーの停止	非使用時間帯の蒸気ボイラーの停止が実施されているか。	実施	1
○	1a.6	蒸気ボイラーの給水水質・フロー量の管理	全ての蒸気ボイラーの給水水質及びフロー量が、フロー率10%以下に管理されているか。	実施	1
○	1a.7	蒸気配管の保温の確認	蒸気配管及び蒸気運水配管の保温材の脱落が無いかを確認し適切に措置されているか。	実施	1
○	1a.8	蒸気ボイラーの起動時間の適正化	全ての蒸気ボイラーの起動時間が、季節によって、使用開始時間に合わせて適正に管理されているか。	実施無し	0
+	1a.9	スチームトラップの効果検証の実施	最適なスチームトラップを選定するために、効果検証が実施されているか。	実施無し	0
b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	1b.1	燃焼機器の空気比の管理	直焚吸収冷水機等の全ての燃焼機器の空気比が、どの程度に管理されているか。	自標空気比	1
○	1b.2	冷凍機の冷却水温度設定値の調整	全ての冷凍機の冷却水温度設定値が冷凍機の冷却水下限温度を目標に調整されているか。	実施	1
○	1b.3	冷温水管等の保温の確認	冷温水管等の保温材の脱落が無いかを確認し適切に措置されているか。	実施	1
○	1b.4	インバータ制御系統のバルブの開度調整	インバータ制御系統の熱源ポンプ回りの全てのバルブが全開になるように調整されているか。	実施	1
○	1b.5	熱源不要期間の熱源機器等停止	熱源機器及び熱源ポンプで、熱源不要期間の電源供給停止、又は夜間の運転停止が実施されているか。	実施	1
○	1b.6	空調停止時の熱源運転時間の短縮	熱源機器が空調停止時間の前に停止されているか。	実施無し	0
○	1b.7	熱源機器の冷水水出口温度設定値の調整	熱源機器の効率向上のために、冷水水出口温度設定値が調整されているか。	実施無し	0
+	1b.8	部分負荷時の熱源運転の適正化	部分負荷時の負荷熱量に応じた熱源機器運転の適正化が、熱源群系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
+	1b.9	部分負荷時の熱源ポンプ運転の適正化	部分負荷時の負荷熱量に応じた熱源ポンプ運転の適正化が、熱源2次ポンプ群及び冷却水ポンプ群系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
+	1b.10	蓄熱槽の管理	蓄熱槽の温度分布、蓄放熱時の温度プロフィール等が適正に管理されているか。	実施無し	0
+	1b.11	ミキシングロス防止のためのバルブ開度の確認	ミキシングロス防止のために、冷水水切換用のバルブ閉止が確認されているか。	実施無し	0
+	1b.12	空調開始時の熱源起動時間の適正化	熱源機器及び熱源2次ポンプの起動時間が、空調開始時間に合わせて季節ごとに適正に管理されているか。	実施無し	0
c. コージェネレーション設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
○	1c.1	コージェネレーションの運転の適正化	コージェネレーションの排熱が有効に利用できるように、発電及び排熱利用の状況が適正に管理されているか。	実施	1
d. 受変電設備、配電設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	1d.1	不要期間・不要時間帯の変圧器の遮断	負荷がない時期、夜間等に、変圧器の遮断が実施されているか。	実施	1
○	1d.2	変圧器タップ切換による電圧の最適化	定格電圧から外れている変圧器の出力端子電圧のタップ切換による調整が実施されているか。	実施	1
+	1d.3	昼間運転設備の夜間移行	昼間運転している電気使用設備の夜間運転への移行を実施しているか。	実施無し	0
e. 圧縮空気供給設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	1e.1	非使用エリアの圧縮空気供給バルブの閉止	非使用エリアの圧縮空気供給バルブが閉止されているか。	実施	1
◎	1e.2	非使用時間帯のエアコンプレッサーの停止	非使用時間帯のエアコンプレッサーの停止が実施されているか。	実施	1
◎	1e.3	部分負荷時のエアコンプレッサー運転の適正化	部分負荷時の負荷に応じたエアコンプレッサー運転の適正化が実施されているか。	実施	1
○	1e.4	エアコンプレッサーの設定圧力の適正化	エアコンプレッサーの設定圧力がエア使用端の必要圧力+0.1MPa以下に調整されているか。	実施	1
○	1e.5	エアコンプレッサー吸入空気温度の管理	十分な換気等の確保等、エアコンプレッサーの吸入空気温度が高ならないように管理されているか。	実施	1
+	1e.6	ドライエアの設定露点温度の緩和	ドライエアの設定露点温度の緩和が実施されているか。	実施無し	0
f. 給水・給湯設備、排水処理設備					
※ 上水道施設、下水道施設は評価対象外とする。					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
○	1f.1	給水・給湯バルブの調整	節水のために給水・給湯の分岐バルブが使用上支障のない範囲で絞られているか。	実施	1
+	1f.2	給水圧力の管理	バルブ全開時の末端圧力が過剰にならないように、給水ポンプユニットの設定圧力が調整されているか。	実施無し	0
+	1f.3	揚水ポンプのバルブの開度調整	揚水ポンプ系統のバルブが極力抵抗とならないように調整されているか。	実施	1
+	1f.4	貯湯温度設定の緩和	衛生上可能な範囲で、貯湯温度設定の緩和が実施されているか。	実施無し	0
+	1f.5	給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止	給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止が実施されているか。	実施無し	0
+	1f.6	ばっ気設備の必要ばっ気圧力に応じた空気供給圧力の管理	排水処理設備のばっ気設備がある場合、必要ばっ気圧力に対して過剰にならないように、空気供給圧力が調整されているか。	実施無し	0

黄色・ブルダウンから  
取組状況を選択する。

## 第1号様式その21

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その21

黄色:プルダウンから  
取組状況を選択する。

い場合は予定時期で評価する。

2. ユーティリティ設備等の保守管理		※ 頻度は同一設備に対するメンテナンス周期とし、設			
a. 蒸気供給設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	2a.1 蒸気ボイラーの点検・清掃	蒸気ボイラーの伝熱面及びバーナーノズルの点検及び清掃及びスケール除去が適切な頻度で実施されているか。	実施	1	
◎	2a.2 蒸気配管・バルブ・スチームトラップからの漏れ点検	蒸気配管、バルブ等からの漏れ点検及びスチームトラップの点検が適切な頻度で実施されているか。	実施	1	
○	2a.3 蒸気制御バルブ等の作動チェック	蒸気制御バルブ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施	1	
+	2a.4 蒸気ボイラーのメーカーによる遠隔監視	予知予防保全のために蒸気ボイラーのメーカーによる遠隔監視が実施されているか。	実施無し	0	
b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	2b.1 熱源機器の点検・清掃	冷凍機のコンデンサ及びエバポレータの清掃、燃焼機器の伝熱面の清掃及びスケール除去、バーナーノズルの点検等の熱源機器の点検・清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施	1	
○	2b.2 熱交換器の清掃	熱交換器の清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施	1	
○	2b.3 熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェック	熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施	1	
○	2b.4 冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃	冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施	1	
+	2b.5 熱源機器のメーカーによる遠隔監視	予知予防保全のために熱源機器のメーカーによる遠隔監視が実施されているか。	実施無し	0	
c. コージェネレーション設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
○	2c.1 コージェネレーション設備の定期的な点検	コージェネレーション設備がある場合、効率を高い状態で維持するため、定期的な点検が実施されているか。	実施	1	
e. 圧縮空気供給設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	2e.1 圧縮空気配管・バルブからの漏れ点検	圧縮空気配管及びバルブからの漏れ点検が実施されており、適切に処置されているか。	実施	1	
◎	2e.2 エアコンプレッサー吸込みフィルターの清掃	エアコンプレッサーの吸込みフィルターの清掃が定期的実施されているか。	実施	1	
○	2e.3 インタークーラーの清掃	冷却効率維持のために、インタークーラーの清掃が定期的実施されているか。	実施無し	0	
3. 建築設備の運用管理					
a. 空調・換気設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	3a.1 居室の室内温度の適正化	居室の実際の室内温度の適正化(夏季26℃以上)と定期的な記録が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1	
○	3a.2 室使用開始時の空調起動時間の適正化	室の使用開始時間に合わせた季節ごとの空調起動時間の適正化が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1	
○	3a.3 換気ファンの間欠運転の実施	スケジュール又は自動制御による換気ファンの間欠運転が、機械室(燃焼系統、臭気系統を除く。)及び倉庫のファンに対して、どの程度で実施されているか。	3時間超6時間以下	0.8	
○	3a.4 クールビズ・ウォームビズによる空調設定温度の緩和	クールビズ(夏季27℃以上)又はウォームビズ(冬季20℃以下)による空調設定温度の緩和が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1	
○	3a.5 エレベーター機械室・電気室の室内設定温度の適正化	エレベーター機械室及び電気室の室内設定温度の適正化が、全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1	
+	3a.6 CO2濃度・外気温湿度による外気取入量の調整	外気負荷低減、外気冷房等のために、室内CO2濃度及び外気温湿度による外気取入量の調整が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	実施無し	0	
+	3a.7 居室以外の室内温度の緩和	主たるエントランスホール、廊下等の居室以外の室内温度が、居室に対して、夏季は高め、冬季は低め、又は夏季27℃以上、冬季20℃以下に設定されているか。	実施無し	0	
+	3a.8 エレベーター機械室・電気室の換気ファンの夏季停止	エレベーター機械室及び電気室の換気ファンの夏季停止が、空調機併用方式の全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1	
+	3a.9 エレベーター機械室・電気室の空調機の給気・還気設定温度の適正化	エレベーター機械室及び電気室の空調機又はパッケージ形空調機の給気設定温度又は還気設定温度の適正化が、室内温度とは別に給気温度又は還気温度の設定が可能な全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	実施無し	0	
+	3a.10 ファンのプリーダウの実施	ダンパが絞られている系統のファンのプリーダウンが実施されているか。	実施無し	0	
+	3a.11 パッケージ形空調機の省エネチューニングの実施	パッケージ形空調機の冷媒蒸発温度設定値の調整が実施されているか。	実施無し	0	
b. 照明設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	3b.1 事務室以外の照度条件の緩和	間引き点灯又は調光等による照度条件の緩和が、工場・プラント及び廊下に対して、どの程度実施されているか。	工場・プラントで実施	0.8	
○	3b.2 照明のタイムスケジュールによる消灯	昼休み一斉消灯など照明のタイムスケジュールによる消灯が、工場・プラント、事務室及び廊下に対して、どの程度実施されているか。	全て実施	1	
○	3b.3 事務室の室内照度の適正化	事務室の室内照度の適正化(概ね500lx以下)が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1	
+	3b.4 事務室の照度条件の緩和	事務室の照明の間引き点灯又は調光等による照度条件の緩和(概ね300lx以下)が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	50%以上で実施	1	
+	3b.5 時間外等の照明点灯エリアの集約化	時間外等の照明点灯エリアを集約する工夫が行われているか。	実施無し	0	

第1号様式その22

黄色・ブルダウンから  
取組状況を選択する。

第1号様式（優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン（第二区分事業所））その22

c. 衛生設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
+	3c.1	洗浄便座暖房の夏季停止	洗浄便座暖房の夏季停止が実施されているか。	実施 1
+	3c.2	給湯温度設定の緩和	季節や用途等に応じた給湯温度設定の緩和が実施されているか。	実施 1
+	3c.3	貯湯式電気温水器の夜間・休日の電源停止	貯湯式電気温水器の夜間及び休日の電源停止が実施されているか。	実施 1
+	3c.4	便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮	便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮が実施されているか。	夏季の給湯中止 0.8
d. 昇降機設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
+	3d.1	夜間・休日等のエレベーターの運転台数の削減	夜間・休日等のエレベーターの運転台数の削減が実施されているか。	実施無し 0
e. その他				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	3e.1	空調空間と非空調空間の境にある出入口の開閉の管理	冷房時・暖房時の閉鎖など空調空間と非空調空間の境にある出入口の開閉の適正な管理が、主たる動線の出入口で実施されているか。	実施 1
+	3e.2	自動販売機の照明の消灯	自動販売機の照明消灯が実施されているか。	実施 1
4. 建築設備の保守管理				
		※ 頻度は同一設備に対するメンテナンス周期とし、設置後メンテナンス周期に達していない場合は予定時期で評価する。		
a. 空調・換気設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	4a.1	空調機・ファンコイルユニット等のフィルターの清掃	空調機、ファンコイルユニット等のフィルターの清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施 1
○	4a.2	センサー類の精度チェック及び制御ダンパ等の作動チェック	センサー類の精度チェック及び制御ダンパ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施 1
○	4a.3	空調機・ファンコイルユニット等のコイルフィンの清掃	空調機、ファンコイルユニット等のコイルフィンの清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施 1
○	4a.4	パッケージ屋外機のフィンコイル洗浄	パッケージ屋外機のフィンコイル洗浄が適切な頻度で実施されているか。	実施 1
○	4a.5	ファンベルトの張力調整	ファンベルトの張力調整が実施されているか。	実施 1
+	4a.6	省エネファンベルトへの交換	省エネファンベルトへの交換が、ベルト駆動ファンの全台数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	20%未満で実施又は実施無し 0
b. 照明設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	4b.1	照明器具の清掃	照明器具の清掃が、汚れの状態や照明器具の用途に応じて定期的に実施されているか。	実施無し 0
+	4b.2	照明用制御設備の作動チェック	照明用制御設備の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施 1
+	4b.3	ランプ交換時の初期照度補正リセットの実施	タイマー式の初期照度補正制御付きの照明器具のランプ交換時に、リセット操作が実施されているか。	実施無し 0



第1号様式その23

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その23

黄色:ブルダウから  
取組状況を選択する。

II. 設備及び建物の性能に関する事項

5. 生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能

※ 上水道施設、下水道施設

a. 燃料の燃焼

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5a.1	燃料の供給量・空気比を調整できるバーナー等の導入	燃焼設備及び燃料の種類に適合し、かつ、負荷及び燃焼状態の変動に応じて燃料の供給量及び空気比(空気比は密閉型燃焼設備に限る。)を調整できるバーナー等が、燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	0.8
5a.2	通風量・燃焼室内の圧力を調整できる通風装置の導入	通風量又は燃焼室内の圧力(圧力は密閉型燃焼設備に限る。)を調整できる通風装置が、通風装置のある燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	0.8
5a.3	通風装置のインバータ制御の導入	通風装置のインバータ制御が、通風装置総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	0.8
5a.4	工業炉のリジェネレイティブバーナーの導入	工業炉のリジェネレイティブバーナーが、燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	0
5a.5	工業炉のリジェネレーター導入	工業炉に高温予熱空気燃焼と高温排熱回収の両方が可能なリジェネレーターが、燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	0

b. 加熱及び冷却並びに伝熱

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5b.1	加熱・冷却制御システムの導入	センサー、コントローラ等を利用した加熱制御システム又は冷却制御システムが、燃焼設備及び熱利用設備総定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	0.8
5b.2	塗装ブースの3WET塗装システムの導入	塗装ブースの中塗乾燥炉削減のために、3WET塗装システムが導入されているか。	採用無し	0

c. 廃熱回収

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5c.1	排ガスの廃熱回収設備の導入	排ガスの廃熱回収設備が、燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%以上30%未満に採用	0.2

d. 断熱・保温

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5d.1	燃焼設備・熱利用設備への二重扉の導入	燃焼設備及び熱利用設備に二重扉が導入されているか。	採用無し	0
5d.2	燃焼設備・熱利用設備への空気流等による遮断設備の導入	燃焼設備及び熱利用設備に内部からの空気流等による遮断設備が導入されているか。	採用	1
5d.3	工業炉の炉壁外面温度による断熱強化	工業炉の炉壁外面温度による断熱強化がどの程度実施されているか。	目標炉壁外面温度	1
5d.4	燃焼設備・熱利用設備炉体開口部の縮小・密閉	燃焼設備又は熱利用設備に対して、炉体開口部の縮小又は密閉が行われているか。	縮小又は密閉	1
5d.5	既存の燃焼設備・熱利用設備の断熱強化	既存の燃焼設備又は熱利用設備に対して、断熱が強化されているか。	断熱強化無し	0

e. 電動機応用設備・電気加熱設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5e.1	生産プロセスにおける電動機台数の削減	生産プロセスにおいて複数の電動機を使用する場合、電動機台数の削減が、複数の電動機を使用する設備総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	0.5
5e.2	中・大容量モータ冷却ファンのモータ運動制御の導入	中・大容量モータ冷却ファンのモータ運動制御が導入されているか。	採用	1
5e.3	エアブロー機器への省エネ型エアノズルの導入	エアブロー機器への省エネ型エアノズルが、エアノズル全個数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	40%以上80%未満に採用	0.5
5e.4	生産プロセスにおける電動機の回転数制御の導入	生産プロセス(特殊排気設備を含む。)において電動機(ポンプ、ブロワ、ファンを含む。)のインバータによる回転数制御が、電動機応用設備総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	0.5
5e.5	電気溶接機のインバータ制御の導入	電気溶接機のインバータ制御が、電気溶接機総定格消費電力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	0.8
5e.6	油圧・空圧駆動成型機の電動化	油圧・空圧駆動成型機の電動化が、成型機全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	0.5
5e.7	高効率クレーンの導入	高効率クレーンが、クレーン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		0.088
		速度制御	5%以上30%未満に採用	0.2
		吊上げ荷重制御	5%未満に採用又は採用無し	0
		巻下げ電源回生制御	5%未満に採用又は採用無し	0
5e.8	生産プロセスにおける高効率ポンプの導入	生産プロセス(純水供給設備を含む。)において、高効率ポンプが、生産プロセス用ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		0.16
		永久磁石(IPM)モータ	5%未満に採用又は採用無し	0
		プレミアム効率(IE3)モータ	5%未満に採用又は採用無し	0
		高効率(IE2)モータ	5%以上30%未満に採用	0.2
5e.9	生産プロセスにおける高効率ブロワ・ファンの導入	生産プロセス(特殊排気設備を含む。)において、高効率ブロワ・ファンが、生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		0.3
		モータ直結形ブロワ・ファン	30%以上70%未満に採用	0.5
		永久磁石(IPM)モータ	5%未満に採用又は採用無し	0
		プレミアム効率(IE3)モータ	5%未満に採用又は採用無し	0
		高効率(IE2)モータ	5%未満に採用又は採用無し	0
5e.10	油圧・空圧駆動アクチュエータの電動化	油圧・空圧駆動アクチュエータの電動化が導入されているか。	採用	1
5e.11	空圧駆動アクチュエータの低圧化	高圧仕様空圧駆動アクチュエータが低圧仕様に変更されているか。	採用無し	0
5e.12	ブロワ・工程におけるエアコンプレッサのブロワ化	ブロワ・工程において、エアコンプレッサがブロワ化されているか。	採用無し	0
5e.13	高効率コンベアの導入	高効率コンベアが導入されているか。	採用無し	0
5e.14	ブロワ・工程の縮小	既存設備に対して、ブロワ・工程が縮小されているか。	採用無し	0
5e.15	ブロワのインレットベーン制御の導入	ブロワのインレットベーン制御が、生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	0
5e.16	ブロワの動力伝達装置による減速の導入	ブロワの動力伝達装置による減速が、生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	0
5e.17	塗料循環システムにおける油圧・空圧ポンプの電動ポンプ化	塗料循環システムにおいて、油圧ポンプ又は空圧ポンプが電動ポンプ化されているか。	採用無し	0
5e.18	塗料循環システムのフローコントロールシステムの導入	塗料循環システムにフローコントロールシステムが導入されているか。	採用無し	0

第1号様式その24

黄色：プルダウンから  
取組状況を選択する。

第1号様式（優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン（第二区分事業所））その24

f. 特殊空調設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	5f.1 クリーンルームのローカルリターン方式の導入	クリーンルームの天井面にファンフィルタユニット又はライン式空調機を用いたローカルリターン方式が、クリーンルームの床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	全て採用	-
○	5f.2 省エネ型ファンフィルタユニットの導入	省エネ型ファンフィルタユニットが、ファンフィルタユニット総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0
		DCブラシレスモータ 誘導モータインバータ制御		1 0
○	5f.3 ファンフィルタユニットの台数制御の導入	クリーンルームのファンフィルタユニットの台数制御が、クリーンルームの床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	全て採用	-
○	5f.4 半導体プロセス等における局所クリーン化の導入	半導体プロセス等において、クリーンルーム全体の清浄度緩和のための局所クリーン化が導入されているか。	採用	1
○	5f.5 クリーンルーム空調機のインバータ制御の導入	クリーンルーム空調機にクリーンルーム内の室圧によるインバータ制御が、クリーンルーム空調機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
○	5f.6 恒温恒湿室の部分層流方式の導入	恒温恒湿室の部分層流方式が、恒温恒湿室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	全て採用	-
○	5f.7 恒温恒湿室の再熱負荷の軽減手法の導入	恒温恒湿室において、減風量法、バイパス法、化学的減湿法（デシカント空調）又は廃熱回収再熱法の再熱負荷の軽減手法が、恒温恒湿室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	全て採用	-
○	5f.8 冷媒ホットガスヒート除湿システムの導入	パッケージ形空調機による除湿再熱システムがある場合、冷媒ホットガスヒート除湿システムが、除湿再熱用パッケージ形空調機総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	対象設備無し	-
○	5f.9 高効率冷凍・冷蔵設備の導入	高効率冷凍・冷蔵設備が、冷凍・冷蔵設備の圧縮機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		0.696
		冷凍庫壁面の高断熱化 前室の導入 搬入口近接ヒューズによる扉の自動閉鎖化 着霜制御（デフロスト） 圧縮機入口ガス管の断熱化 冷却器用ファンの台数制御 圧縮機インバータ制御	70%以上95%未満に採用 70%以上95%未満に採用 70%以上95%未満に採用 70%以上95%未満に採用 70%以上95%未満に採用 5%以上30%未満に採用 70%以上95%未満に採用	0.8 0.8 0.8 0.8 0.8 0.2 0.8
+	5f.10 クリーンルームの顕熱処理用ドライコイルの導入	クリーンルームの顕熱処理用にドライコイルが導入されているか。	採用	1
+	5f.11 クリーンルームの局所冷却システムの導入	クリーンルームの局所冷却システムが導入されているか。	採用無し	0
+	5f.12 クリーンルームの陽圧排気の一室利用	クリーンルームの陽圧排気が、一般室の空調負荷低減に利用されているか。	採用	1
+	5f.13 省エネ型クリーンルーム空調コントローラの導入	数値計画型モデル予測制御を温湿度制御に応用した省エネ型クリーンルーム空調コントローラが導入されているか。	採用無し	0
+	5f.14 クリーンルームの外調機省エネ制御システムの導入	クリーンルームの各エリアの熱負荷を監視して、外調機の給気温度を必要以上に高くするのではなく、最適に調整する外調機省エネ制御システムが導入されているか。	採用無し	0
+	5f.15 恒温恒湿室の露点飽和散水システムの導入	恒温恒湿室の露点飽和散水システム（DPC（Dew Point Control）方式）が導入されているか。	採用無し	0
+	5f.16 動物実験施設への空気熱交換器の導入	動物実験施設の全外気空調方式の外気負荷低減のために、空気熱交換器が導入されているか。	採用無し	0
+	5f.17 換気式飼育ラックによる部分換気方式の導入	動物実験施設の換気式飼育ラックによる部分換気方式が導入されているか。	採用無し	0
+	5f.18 少排気量ドラフトチャンバーの導入	少排気量ドラフトチャンバーが、ドラフトチャンバー全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用無し	0
+	5f.19 ドラフトチャンバーの換気量可変制御システムの導入	ドラフトチャンバーのフード開口面積又は人検知センサー制御による換気量可変制御システムが、ドラフトチャンバー全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用無し	0
+	5f.20 空調予熱コイルへの冷凍機冷却水利用システムの導入	空調予熱コイルへの冷凍機冷却水利用システムが導入されているか。	採用無し	0
+	5f.21 塗装ブース空調のウィンドウ制御の導入	塗装ブース空調のウィンドウ制御が導入されているか。	採用無し	0
+	5f.22 塗装ブース排気リサイクルシステムの導入	塗装ブースの有人ゾーン以外のエリアへの排気リサイクルシステムが導入されているか。	採用無し	0
+	5f.23 冷凍車プラットホームへの冷房設備の導入	冷凍庫の負荷を低減するために、外部と仕切られた冷凍車のプラットホームに冷房設備が導入されているか。	採用無し	0
g. 特殊排気設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	5g.1 高効率脱臭装置の導入	蓄熱燃焼式（リジェネ式）、吸着濃縮式、触媒燃焼式、又はマイクロガスタービン燃焼式の高効率脱臭装置が導入されているか。	採用	1
○	5g.2 生産設備と脱臭装置の連動制御の導入	塗工機等の生産設備が24時間連続運転でない場合、生産設備と脱臭装置の連動制御が導入されているか。	採用	1
+	5g.3 直燃式脱臭装置の廃熱回収ボイラー・エコマイザーの導入	直燃式脱臭装置に廃熱回収ボイラー又はエコマイザーが導入されているか。	採用無し	0
+	5g.4 直燃式脱臭装置の精留副生液の混合燃焼システムの導入	直燃式脱臭装置に精留副生液の混合燃焼システムが導入されているか。	採用無し	0
+	5g.5 直燃式脱臭装置の待機時温度低下制御の導入	直燃式脱臭装置の待機時の設定温度を下げる待機時温度低下制御が導入されているか。	採用無し	0
+	5g.6 スクラバーの廃熱回収システムの導入	排気処理用スクラバーに熱交換器を設置した廃熱回収システムが導入されているか。	採用無し	0
h. 純水供給設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	5h.1 純水ポンプのインバータ制御の導入	純水ポンプのインバータ制御が、純水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	0
○	5h.2 超低圧RO膜の導入	ポンプの小型化又は押込圧力の低減のために、超低圧RO膜が導入されているか。	採用	1
○	5h.3 高効率UV酸化装置の導入	低圧UV酸化装置に電子式安定器が導入されているか。	採用	1
+	5h.4 純水ROブライン回収装置の導入	純水ROブライン回収装置が導入されているか。	採用無し	0
+	5h.5 純水冷却循環システムの導入	冷却水廃熱を回収し、1次純水の熱源に利用する純水冷却循環システムが導入されているか。	採用無し	0
+	5h.6 廃熱利用による蒸留式純水製造装置の導入	廃熱利用による蒸留式純水製造装置が導入されているか。	採用無し	0
i. 場内輸送設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	5i.1 高効率フォークリフトの導入	電動、ハイブリッド又はプロパンなどの高効率フォークリフトが、フォークリフト全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	過半に採用	-
○	5i.2 低燃費車の導入	重機及び場内車面に低燃費車が、重機及び場内車面（ナンバープレートのあるものを除く。）全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	過半に採用	-
○	5i.3 高効率トランスファークレーンの導入	高効率トランスファークレーンが、トランスファークレーン（電動のものを除く。）全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	港湾施設無し	-

## 第1号様式その25

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その25

黄色:ブルダウンから  
取組状況を選択する。

## Ⅲ. 設備及び事業所の運用に関する事項

## 5. 生産・プラント・特殊設備の運用管理

※ 上水道施設、下水道施設、廃棄物

## a. 燃料の燃焼

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5a.1	燃焼設備の空気比の管理	燃焼設備の空気比管理がどの程度実施されているか。	目標空気比	1
◎ 5a.2	燃焼設備の運転台数の調整	複数の燃焼設備を使用する場合、負荷の集約化のために運転台数の調整が実施されているか。	実施	1
○ 5a.3	燃料の管理	燃料の性状に応じて、燃焼効率を改善するために、燃料の粒度、水分、粘度等が適切に調整されているか。	対象燃料無し	-
○ 5a.4	燃焼設備の空運転時間の短縮	燃焼設備の空運転時間の短縮が実施されているか。	実施無し	0

## b. 加熱及び冷却並びに伝熱

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5b.1	熱媒体の温度・圧力・量の管理	熱量の過剰な供給を無くすために、熱媒体の温度、圧力及び量が適切に管理されているか。	実施	1
◎ 5b.2	非使用時の蒸気供給バルブの閉止	蒸気を使用する熱利用設備が24時間連続運転でない場合で、かつ全ての蒸気が廃熱利用でない場合、非使用時に蒸気供給バルブが閉止されているか。	実施	1
○ 5b.3	被加熱物・被冷却物の装てん方法の調整	過大負荷及び過小負荷を避けるために、操業状況の変化に応じて被加熱物又は被冷却物の量及び炉内配置の見直しなど装てん方法の調整が実施されているか。	実施	1
○ 5b.4	炉内被加熱物の温度管理	過熱防止のために、炉内被加熱物の温度管理が、燃焼設備及び熱利用設備総定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で実施されているか。	30%以上70%未満に採用	0.5
+ 5b.5	ヒートパターンの改善	設備の構造、被加熱物の特性、加熱・熱処理等の前後の工程に応じて、熱効率を向上させるために、ヒートパターンの改善が実施されているか。	実施	1
+ 5b.6	工程間の待ち時間の短縮	加熱を反復して行う工程の場合、工程の待ち時間の短縮が実施されているか。	実施	1
+ 5b.7	複数の加熱等を行う設備の負荷の集約化	複数の加熱等を行う設備がある場合、負荷の集約化が実施されているか。	実施無し	0
+ 5b.8	断続的な運転を行う設備の運転の集約化	断続的な運転を行う設備がある場合、運転の集約が実施されているか。	実施無し	0
+ 5b.9	炉内ガス循環の改善	燃焼設備及び熱利用設備において、対流伝熱性能を改善するために、炉内ガスの循環を高めるような方策が実施されているか。	実施無し	0

## c. 廃熱回収

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5c.1	排ガスの廃熱回収率の管理	排ガスの廃熱回収率が管理されているか。	実施	1

## d. 断熱・保温

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5d.1	燃焼設備・熱利用設備の開閉回数・開閉時間・開口面積の管理	燃焼設備及び熱利用設備の開閉回数、開閉時間又は開口面積の管理が、燃焼設備及び熱利用設備総定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で実施されているか。	30%以上70%未満に採用	0.5

## e. 電動力応用設備・電気加熱設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5e.1	非使用時の電気使用設備の停止	非使用時に電気使用設備の停止又は1次側電源遮断が、待機状態のある電動力応用設備及び電気加熱設備総電動機出力に対して、どの程度の割合で実施されているか。	30%以上70%未満に採用	0.5
○ 5e.2	電気炉における被加熱物の装てん方法の調整	電気炉において、被加熱物の量及び炉内配置の見直しなど装てん方法の調整が実施されているか。	実施	1
○ 5e.3	電気炉における炉内被加熱物の温度管理	電気炉において、過熱防止のために炉内被加熱物の温度管理が実施されているか。	実施	1
○ 5e.4	エアブローの適正化	圧縮空気の削減のために、エアブローの吹き付け範囲、エア噴射時間等の適正化が実施されているか。	実施	1
+ 5e.5	生産プロセスにおけるポンプ・ブロワ・ファンの間欠運転の実施	生産プロセスにおいて、ポンプ、ブロワ又はファンの間欠運転が、生産プロセス用ポンプ・ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で実施されているか。	5%以上30%未満に採用	0.2
+ 5e.6	電気炉におけるヒートパターンの改善	電気炉において、設備の構造、被加熱物の特性、加熱・熱処理等の前後の工程等に応じて、熱効率を向上させるために、ヒートパターンの改善が実施されているか。	実施	1
+ 5e.7	電気炉における工程間の待ち時間の短縮	電気炉において、加熱を反復して行う工程の待ち時間の短縮が実施されているか。	実施	1
+ 5e.8	電解設備の電解効率の改善	適当な形状及び特性の電極を採用し、電極間の距離、電解液の濃度を適正な値とし、導体の接触抵抗等を低減するような電解効率の改善対策が実施されているか。	実施無し	0
+ 5e.9	電気加熱設備のタップ切替・ON/OFFの実施	温度による電気加熱設備のタップ切替又はON/OFFが実施されているか。	実施無し	0

## f. 特殊空調設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5f.1	クリーンルームの清浄度の適正化	管理値を上回り過剰品質にならないように、クリーンルームの清浄度の適正化が実施されているか。	実施	1
○ 5f.2	非使用時の特殊空調室の低風量運転の実施	夜間及び休日、無人時など非使用時に、特殊空調室の低風量運転又は間引き運転(自動制御が有効に機能している場合を含む。)が実施されているか。	実施	1
○ 5f.3	冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)の実施	冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)が実施されているか。(着霜制御がある場合も除霜実施とみなす。)	冷凍・冷蔵設備無し	-
+ 5f.4	特殊空調室の温度・湿度設定の緩和	季節に応じて、特殊空調室の温度・湿度設定の変更が実施されているか。	実施無し	0
+ 5f.5	特殊空調室の運転時間の短縮	夜間、休日など特殊空調室の運転時間の短縮が実施されているか。	実施無し	0
+ 5f.6	特殊空調室の温度・湿度PID制御の調整	特殊空調室の加熱・冷却制御のインターバル等を実測及び分析し、温度・湿度PID制御パラメータの調整が実施されているか。	実施無し	0
+ 5f.7	気流シミュレーションによるクリーンルームの気流改善	気流シミュレーションを活用し、クリーンルームの気流改善が実施されているか。	実施無し	0

## g. 特殊排気設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5g.1	特殊排気設備の排気量の適正化	生産設備での必要風量に合わせて、特殊排気設備の排気量の適正化が実施されているか。	実施	1
○ 5g.2	非使用時の特殊排気設備の低風量運転の実施	塗工機等の生産設備の非使用時に特殊排気設備の低風量運転が実施されているか。	実施無し	0

第1号様式その26

黄色：ブルダウンから  
取組状況を選択する。

第1号様式（優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン（第二区分事業所））その26

h. 純水供給設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5h.1	純水原水加熱設定温度の適正化	生産設備に問題ない範囲で、純水原水加熱設定温度の適正化が実施されているか。	実施無し	0
5h.2	RO装置等の運転台数の適正化	RO装置等が複数ある場合、RO装置等の交互運転、減量運転又は停止など運転台数の適正化が実施されているか。	実施	1
5h.3	UVランプ・UV酸化器の間引き・停止	UVランプ又はUV酸化器の間引き又は停止が実施されているか。	実施無し	0
5h.4	製品洗浄待ち時間中のスタンバイロー低減の実施	製品洗浄待ち時間中に機能上問題ない範囲で、スタンバイローの低減が実施されているか。	実施無し	0
5h.5	RO装置回収率の適正化	原水水質を考慮して、RO装置回収率の適正化が実施されているか。	実施無し	0

i. 場内輸送設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5i.1	燃費の管理	場内輸送設備の燃費の管理が実施されているか。	実施無し	0

6. 生産・プラント・特殊設備の保守管理

※ 上水道施設、下水道施設、廃棄物処理施設は評価対象外とする。

a. 燃料の燃焼

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
6a.1	燃焼設備の定期的な保守・点検	燃料燃焼の良好な状態を維持するために、燃焼設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。	実施	1

b. 加熱及び冷却並びに伝熱の管理

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
6b.1	熱交換器等の定期的な付着物の除去	伝熱性能低下を防止するために、熱交換器等の煤じん、スケールその他の付着物の定期的な除去が実施されているか。	実施	1

c. 廃熱回収

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
6c.1	廃熱回収設備の定期的な保守・点検	廃熱回収及び廃熱利用の効率を維持するために、廃熱回収設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。	実施	1

d. 断熱・保温

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
6d.1	燃焼設備・熱利用設備の定期的な保守・点検	開口部等からの熱媒体の漏えい及び空気の流出入による熱の損失を防止するために、燃焼設備及び熱利用設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。	実施	1
6d.2	配管の定期的な保守・点検	配管表面からの熱損失、漏えい等を防止するために、配管の定期的な保守及び点検が実施されているか。	実施	1
6d.3	燃料・製品貯蔵設備の定期的な保守・点検	熱の漏えい等を防止するために、燃料・製品貯蔵設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。	対象設備無し	-

e. 電力応用設備・電気加熱設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
6e.1	電力応用設備・電気加熱設備の定期的な保守・点検	電気使用の良好な状態を維持するために、電力応用設備及び電気加熱設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。	実施	1
6e.2	生産プロセスにおけるブロワ・ファンのフィルターの清掃	生産プロセスにおいて、ブロワ・ファンのフィルターの清掃が定期的実施されているか。	実施	1

f. 特殊空調設備

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
6f.1	特殊空調設備の定期的な保守・点検	特殊空調の良好な状態を維持するために、特殊空調設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。	実施	1
6f.2	冷凍・冷蔵庫の保温管理	冷凍・冷蔵庫の保温状況の点検及び保守が実施されているか。	冷凍・冷蔵庫無し	-

II. 設備及び建物の性能に関する事項

5. 生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能

※ 上水道施設、下水道施設、廃棄物処理施設は評価対象外とする。

j. 追加評価事項

※ 生産・プラント・特殊設備において、評価項目に無いもので、次の条件を満足する評価対象にしたい対策がある場合は、下欄に概要を簡潔に記入した上で、関連資料を添付して提出する。  
 ・一次エネルギー削減量実績値が有効であると認められるとき。ただし、一次エネルギー削減量実績値は、原則として計量設備により把握した実績値とし、不明な場合は設備仕様及び実稼働条件に基づく推計値を用いることができるものとする。  
 ・2005年度以降に導入した設備であること。  
 ・省エネ法の第一種特定工場（製造業）の中長期計画作成指針にある設備等の中で、設備性能の向上に資するものを対象とする。

No.	対策名称	対策の概要	一次エネルギー削減量実績値 [GJ/年]	評価点
5j.1				0
5j.2				
5j.3				
5j.4				
5j.5				

生産・プラント・特殊設備に限り、評価項目にないもので、評価対象にしたい対策がある場合は、対策名称、対策の概要を記入し、一次エネルギー削減量実績値[GJ/年]を数値で直接記入する。

第1号様式その27

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その27

II. 設備及び建物の性能に関する事項

5. 上水道施設の省エネルギー性能  
共通

※ 上水道施設以外は評価対象外とする。  
※ 上水道ポンプは、取水・導水、ろ過、高度浄水

黄色:ブルダウンから  
取組状況を選択する。  
ポンプを総称したものとす。

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5a.1	高効率上水道ポンプの導入	高効率上水道ポンプが、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ以上 高効率(IE2)モータ以上	30%未満に採用又は採用無し 100%に採用 100%に採用	- - -
◎ 5a.2	上水道ポンプの台数制御の導入	同一系統に複数のポンプが設置されている場合、上水道ポンプの台数制御が、対象上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上100%未満に採用	-
○ 5a.3	上水道ポンプの回転数制御の導入	上水道ポンプのインバータ、静止セルビウス等による回転数制御が、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	-
○ 5a.4	高効率ブロウ・ファンの導入	高効率ブロウ及びファンが、ブロウ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 モータ直結形ブロウ・ファン 永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ 高効率(IE2)モータ	95%以上に採用 5%未満に採用又は採用無し 5%未満に採用又は採用無し 5%未満に採用又は採用無し	- - - -
+ 5a.5	上水道ポンプの翼角制御の導入	上水道ポンプの翼角制御が、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%以上30%未満に採用	-
+ 5a.6	上水道ポンプのインペラの改良	上水道ポンプのインペラが、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で改良されているか。	5%未満に採用又は採用無し	-

b. 取水・導水工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5b.1	除じん機の上下流の水位差によるON-OFF制御の導入	除じん機の上下流の水位差によるON-OFF制御が導入されているか。	採用無し	-
+ 5b.2	場内雨水利用の導入	場内雨水の原水利用が導入されているか。	採用	-

c. 沈殿・ろ過工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5c.1	かくはん装置の回転数制御の導入	かくはん装置の回転数制御が、かくはん装置総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	-
○ 5c.2	かくはん装置の低速モータの導入	かくはん装置の低速モータが、かくはん装置総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	-
+ 5c.3	自然平衡形ろ過池の導入	自然平衡形ろ過池(グリーンリーフ方式)が導入されているか。	採用	-

d. 高度浄水工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5d.1	オゾンブロウのインバータ制御の導入	オゾンブロウのインバータ制御が、オゾンブロウ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	-

e. 排水処理工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
+ 5e.1	天日乾燥と脱水機併用の污泥脱水システムの導入	天日乾燥と脱水機の併用による污泥脱水システムが導入されているか。	採用無し	-
+ 5e.2	排熱利用による濃縮污泥加温システムの導入	排熱利用により濃縮污泥を加温するシステムが導入されているか。	採用無し	-

III. 設備及び事業所の運用に関する事項

5. 上水道施設の運用管理

※ 上水道施設以外は評価対象外とする。

a. 共通

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5a.1	水量・水圧の適正化	水量及び水圧の適正化が実施されているか。	実施無し	-
◎ 5a.2	上水道ポンプ台数制御の適正化	上水道ポンプ台数制御の適正化が実施されているか。	実施無し	-

b. 取水・導水工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5b.1	除じん機の運転時間・運転間隔の適正化	除じん機の運転時間・運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	-

c. 沈殿・ろ過工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5c.1	污泥かき寄せ機の運転時間・運転間隔の適正化	污泥かき寄せ機の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	-
○ 5c.2	污泥排出装置の運転時間・運転間隔の適正化	界面計又は濃度計の利用による污泥排出装置の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	-
○ 5c.3	ろ過逆洗・空洗の頻度の適正化	ろ過逆洗及び空洗の頻度の適正化が実施されているか。	実施	-

d. 高度浄水工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5d.1	膜ろ過の膜洗浄の頻度・時間の適正化	膜ろ過の膜洗浄の頻度及び時間の適正化が実施されているか。	実施	-
○ 5d.2	オゾン注入量の調整	オゾン注入量の調整が実施されているか。	実施	-

e. 排水処理工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5e.1	污泥濃縮設備の運転時間・運転間隔の適正化	污泥濃縮設備の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	-
○ 5e.2	污泥脱水設備の運転時間・運転間隔の適正化	污泥脱水設備の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	-

6. 上水道施設の保守管理

※ 上水道施設以外は評価対象外とする。

a. 共通

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 6a.1	上水道施設の定期的な保守・点検	上水道施設の良好な状態を維持するために、定期的に保守及び点検が実施されているか。	実施	-
◎ 6a.2	ブロウ・ファン等の吸気フィルターの清掃	ブロウ・ファン等の吸気フィルターの清掃が定期的に実施されているか。	実施	-

第1号様式その28

第1号様式（優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン（第二区分事業所））その28

黄色：プルダウンから取組状況を選択する。

II. 設備及び建物の性能に関する事項

5. 下水道施設の省エネルギー性能

※ 下水道施設以外は評価対象外とする。

a. 前処理工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5a.1	主ポンプの台数制御の導入	主ポンプの台数制御が、主ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	-
5a.2	高効率主ポンプの導入	高効率モータを使用した高効率主ポンプが、主ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%以上30%未満に採用	-
5a.3	主ポンプの回転数制御の導入	主ポンプのインバータ、静止セルビウス等による回転数制御が、主ポンプ（雨水ポンプを除く。）総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%以上30%未満に採用	-
5a.4	スクリーン・揚砂設備の間欠制御の導入	タイマー、水位差、主ポンプ運動によるスクリーン設備及び揚砂設備の間欠制御が導入されているか。	採用無し	-
5a.5	流入水量による池数制御の導入	流入水量による池数制御が導入されているか。	採用無し	-

b. 水処理工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5b.1	ばっ気用ブロワの台数制御の導入	ばっ気用ブロワの台数制御が、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	-
5b.2	ばっ気用ブロワの回転数制御・インレットベーン制御の導入	ばっ気用ブロワの回転数制御又はインレットベーン制御が、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	-
5b.3	微細気泡散気装置の導入	微細気泡散気装置が、系列数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	-
5b.4	返送汚泥ポンプの台数制御の導入	返送汚泥ポンプの台数制御が、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	-
5b.5	高効率返送汚泥ポンプの導入	高効率モータを使用した高効率返送汚泥ポンプが、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	-
5b.6	汚泥かき寄せ機の間欠制御の導入	タイマー、汚泥界面による汚泥かき寄せ機の間欠制御が導入されているか。	採用無し	-
5b.7	汚泥引き抜きポンプの間欠制御の導入	タイマー、濃度、プリセット量による汚泥引き抜きポンプの間欠制御が導入されているか。	採用無し	-
5b.8	返送汚泥ポンプの回転数制御の導入	返送汚泥ポンプの回転数制御が、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	-
5b.9	ばっ気用ブロワの送風量制御の導入	流入水量比例制御、MLSS（活性汚泥濃度）制御、DO（溶存酸素濃度）制御、ORP制御又は硝化（アンモニア濃度）制御によるばっ気用ブロワの送風量制御が、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	-
5b.10	水中かくはん機の回転数制御の導入	水中かくはん機の回転数制御が、水中かくはん機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%以上30%未満に採用	-
5b.11	水中かくはん機の間欠制御の導入	水中かくはん機の間欠制御が、水中かくはん機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%以上30%未満に採用	-
5b.12	ブロワ管への超音波流量計の導入	ブロワ管の圧力損失低減のために、超音波流量計が導入されているか。	採用無し	-
5b.13	余剰汚泥ポンプの間欠制御の導入	タイマー、濃度又はプリセット量による余剰汚泥ポンプの間欠制御が導入されているか。	採用無し	-
5b.14	樹脂チェーン汚泥かき寄せ機の導入	樹脂製の軽量チェーンかき寄せ機が導入されているか。	採用	-
5b.15	高効率ばっ気用ブロワの導入	高効率モータを使用した高効率ばっ気用ブロワが、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	30%以上70%未満に採用	-
5b.16	スチームタービン駆動ブロワの導入	スチームタービン駆動ブロワが導入されているか。	採用無し	-
5b.17	硝化液循環ポンプの台数制御の導入	硝化液循環ポンプの台数制御が、硝化液循環ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	-
5b.18	硝化液循環ポンプの回転数制御の導入	硝化液循環ポンプの回転数制御が、硝化液循環ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	-

c. 汚泥処理工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5c.1	汚泥輸送ポンプの台数制御の導入	汚泥輸送ポンプの台数制御が、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	-
5c.2	高効率汚泥輸送ポンプの導入	高効率モータを使用した高効率汚泥輸送ポンプが、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	-
5c.3	汚泥輸送ポンプの回転数制御の導入	汚泥輸送ポンプの回転数制御が、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用又は採用無し	-
5c.4	高効率汚泥脱水装置の導入	高効率な汚泥脱水装置が導入されているか。	採用	-
5c.5	高性能フィルターの導入	汚泥含水率低減のために、高性能フィルターが導入されているか。	採用無し	-

d. 汚泥焼却工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
5d.1	汚泥焼却炉等の流動ブロワ・誘引ファンの回転数制御の導入	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の流動ブロワ及び誘引ファンの回転数制御が、流動ブロワ・誘引ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	-
5d.2	汚泥焼却炉等の炉壁外面温度による断熱強化	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の炉壁外面温度による断熱強化がどの程度実施されているか。	基準炉壁外面温度	-
5d.3	汚泥焼却炉等の廃熱回収システムの導入	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の廃熱回収システムが導入されているか。	採用無し	-
5d.4	汚泥焼却炉等の廃熱蒸気による暖房利用システムの導入	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の廃熱蒸気による暖房利用システムが導入されているか。	採用無し	-

第1号様式その29

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その29

黄色:プルダウンから  
取組状況を選択する。

Ⅲ. 設備及び事業所の運用に関する事項

5. 下水道施設の運用管理 ※ 下水道施設以外は評価対象外とする。

a. 前処理工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5a.1	主ポンプの高水位運転の実施	主ポンプ(雨水ポンプを除く。)の揚程を低減するために、高水位運転が実施されているか。	実施	-

b. 水処理工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5b.1	必要ばっ気圧力に応じた空気供給圧力の管理	必要ばっ気圧力に対して過剰にならないように、空気供給圧力が調整されているか。	実施	-
○ 5b.2	ろ過装置洗浄工程の適正化	ろ過装置洗浄工程の適正化が実施されているか。	実施	-
○ 5b.3	脱臭空気量の低減の実施	臭気発生源の拡散防止、発生臭気の漏えい防止又は一般換気との分離により、脱臭空気量の低減が実施されているか。	実施無し	-
+ 5b.4	スカム除去設備のスカム捕捉効率の管理	スカム除去設備のスカム捕捉効率の管理が実施されているか。	実施無し	-

c. 汚泥処理工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 5c.1	消化タンクの投入汚泥濃度管理・温度管理	消化タンクの投入汚泥濃度管理及び温度管理が実施されているか。	実施	-
○ 5c.2	脱水汚泥の低含水率化の実施	脱水汚泥の低含水率化が実施されているか。	実施無し	-

d. 汚泥焼却工程

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 5d.1	汚泥焼却炉等の燃料と空気量の適正化	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の燃料と空気量の適正化が実施されているか。	実施	-
○ 5d.2	汚泥焼却炉等の負荷率の適正化	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の適正負荷率運転が実施されているか。	実施	-
○ 5d.3	汚泥焼却炉等の熱媒体(砂)の温度・量の管理	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の熱媒体(砂)の温度・量の管理が実施されているか。	実施	-
+ 5d.4	汚泥焼却炉等の連続運転の実施	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の連続運転が実施されているか。	実施無し	-
+ 5d.5	汚泥焼却炉等の自然時間拡大の実施	補助燃料の低減のために、汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の自然時間の拡大が実施されているか。	実施無し	-

6. 下水道施設の保守管理 ※ 下水道施設以外は評価対象外とする。

e. 共通

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎ 6e.1	下水道施設の定期的な保守・点検	下水道施設の良好な状態を維持するために、定期的に保守及び点検が実施されているか。	実施	-
◎ 6e.2	ばっ気用ブロワ・ファン等の吸気フィルターの清掃	ばっ気用ブロワ、ファン等の吸気フィルターの清掃が定期的に実施されているか。	実施	-

第1号様式その30

第1号様式（優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン（第二区分事業所））その30

II. 設備及び建物の性能に関する事項				
5. 廃棄物処理施設の省エネルギー性能 ※ 廃棄物処理施設以外は評価対象外とする。				
a. 前処理工程				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	5a.1 高効率ごみクレーン等の導入	高効率ごみクレーン及び高効率灰クレーンが導入されているか。 速度制御 吊上げ荷重制御 巻下げ電源回生制御	採用 採用 採用	- - -
○	5a.2 高効率ごみ投入扉システムの導入	高効率ごみ投入扉システムが導入されているか。 未搬入時の自動停止制御 車両管制システム 可変容量式油圧ポンプ又は電動駆動化	採用 採用 採用無し	- - -
○	5a.3 高効率脱臭ファンの導入	高効率脱臭ファンが、脱臭ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 モータ直結形ファン 永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ 高効率(IE2)モータ	5%未満に採用又は採用無し 5%未満に採用又は採用無し 5%未満に採用又は採用無し 5%未満に採用又は採用無し	- - - -
+	5a.4 乾燥機の廃熱利用システムの導入	乾燥機に排ガス再循環、排ガス熱回収、低圧抽気蒸気等の熱利用システムが導入されているか。	採用無し	-
+	5a.5 乾燥機の高効率バーナーの導入	乾燥機に高効率バーナーが導入されているか。	採用無し	-
+	5a.6 乾燥機の高効率自動乾燥制御装置の導入	乾燥機に高効率自動乾燥制御装置が導入されているか。	採用無し	-
b. 熱処理工程				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	5b.1 焼却炉等の自動燃焼装置の導入	焼却炉及びガス化溶融炉に自動燃焼装置が導入されているか。	採用	-
◎	5b.2 焼却炉等の廃熱回収システムの導入	焼却炉、ガス化溶融炉及び燃料式溶融炉の廃熱回収システムが導入されているか。	採用	-
◎	5b.3 通風設備の高効率ブロワの導入	通風設備の高効率ブロワ・ファンが、ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 モータ直結形ブロワ 永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ 高効率(IE2)モータ	95%以上に採用 5%未満に採用又は採用無し 5%未満に採用又は採用無し 5%未満に採用又は採用無し	- - - -
○	5b.4 燃料式溶融炉の高効率バーナー等の導入	燃料式溶融炉がある場合、高効率バーナー、純酸素バーナー又は廃棄物利用バーナーが導入されているか。	燃料式溶融炉無し	-
○	5b.5 電気式溶融炉の最適電力制御の導入	電気式溶融炉がある場合、最適電力制御が導入されているか。	電気式溶融炉無し	-
○	5b.6 高効率廃熱ボイラーの導入	高温高圧ボイラー、給水加熱、機械式ハンマリング装置等の高効率廃熱ボイラーが導入されているか。	採用	-
○	5b.7 廃熱ボイラーの低温エコマイザーの導入	廃熱ボイラーに低温エコマイザーが導入されているか。	採用無し	-
○	5b.8 通風設備のブロワの回転数制御の導入	通風設備のブロワ・ファンの回転数制御が導入されているか。	95%以上に採用	-
○	5b.9 焼却炉等の高効率断熱炉体の導入	焼却炉及びガス化溶融炉に高効率断熱炉体が導入されているか。	断熱強化無し	-
+	5b.10 焼却炉等における炉体のボイラー化	焼却炉及びガス化溶融炉に、水冷壁等の炉体のボイラー化が導入されているか。	採用	-
+	5b.11 減温塔の最適水噴霧制御の導入	減温塔に最適水噴霧制御が導入されているか。	採用	-
+	5b.12 通風設備の蒸気タービン駆動ブロワの導入	通風設備に蒸気タービン駆動ブロワが導入されているか。	採用無し	-
+	5b.13 通風設備の高効率蒸気式空気予熱器の導入	通風設備に、低圧蒸気利用の温度制御による高効率蒸気式空気予熱器が導入されているか。	採用無し	-
+	5b.14 炉室内の最適換気制御システムの導入	炉室内雰囲気自動計測による最適換気制御システムが導入されているか。	採用無し	-
c. 後処理工程				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	5c.1 コンベアのインバータ制御の導入	コンベアの搬送速度のインバータ制御が導入されているか。	採用無し	-
○	5c.2 飛灰固化装置のインバータ制御の導入	飛灰固化装置の混練機駆動のインバータ制御が導入されているか。	採用無し	-
+	5c.3 排ガス処理用触媒反応塔への低温触媒の導入	再加熱用熱量の低減のために、排ガス処理用の触媒反応塔に低温触媒が導入されているか。	採用無し	-
+	5c.4 白煙防止用空気加熱器の空気量制御の導入	白煙防止用空気加熱器に、外気条件による空気量制御が導入されているか。	採用無し	-
+	5c.5 加熱脱塩素化装置の最適温度制御の導入	加熱脱塩素化装置の反応装置内の最適温度制御が導入されているか。	採用無し	-
III. 設備及び事業所の運用に関する事項				
5. 廃棄物処理施設の運用管理 ※ 廃棄物処理施設以外は評価対象外とする。				
a. 前処理工程				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	5a.1 脱臭ファンの運転時間短縮の実施	脱臭ファンの運転時間の短縮が実施されているか。	実施	-
b. 熱処理工程				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	5b.1 焼却炉等の燃料と空気量の適正化	焼却炉、ガス化溶融炉及び燃料式溶融炉の燃料と空気量の適正化が実施されているか。	実施	-
◎	5b.2 通風設備の送風量の適正化	通風設備の送風量の適正化が実施されているか。	実施	-
○	5b.3 発電用蒸気量の調整	発電用蒸気量を増やすための調整が実施されているか。	実施無し	-
c. 後処理工程				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	5c.1 ろ過式集じん装置のヒーター温度制御の適正化	ろ過式集じん装置のヒーター温度制御の適正化が実施されているか。	実施	-
6. 廃棄物処理施設の保守管理				
d. 共通 ※ 廃棄物処理施設以外は評価対象外とする。				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	6d.1 廃棄物処理施設の定期的な保守・点検	廃棄物処理施設の良好な状態を維持するために、定期的な保守及び点検が実施されているか。	採用無し	-

黄色:ブルダウンから取組状況を選択する。



5 調書シート(第2号様式その1からその14)

共通

すべてのシートにおいて、原則として調書に記入した設備機器の『種別』や『使用用途』と各評価項目の取組状況に不整合がある場合は、セルが赤くなるように設定されている。

設備機器及び取組状況の入力中にセルが赤くなった場合は、入力又は選択内容を再確認した上で、必要に応じて修正する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その4

熱源ポンプ

No	管理区分	機器記号	機器名称	No.2	No.3	No.4	No.1	-	II 1b.5	II 1b.6	II 1b.8			II 1b.11	II 1b.12	II 1b.13	II 1b.22	エネルギー使用量				
				種別			電動機出力 [kW]		台数	熱源2次ポンプの台数制御及びインバータによる変流量制御	熱源2次ポンプの3台以上に分割又は小容量ポンプ	永久磁石 (IPM) モータ	プレミアム効率 (IE3) モータ	高効率 (IE2) モータ	熱源1次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御	冷却水ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御	熱源2次ポンプの末端差圧制御	熱源2次ポンプの送水圧力設定制御	年間稼働時間 [h/年]	負荷率	推計値 [MWh/年]	実測値 [MWh/年]
取組状況の程度				-	-	-		-														
合計				111.0kW	148.0kW	220.0kW	479.0kW	14台	111.0kW	111.0kW	0.0kW	55.0kW	479.0kW	45.0kW								
1	ユーティリティ	PCD-RH+1-3	直熱吸収冷水機用冷却水ポンプ			○	55.0	3				○									495	
2	ユーティリティ	PC-RH+1-3	直熱吸収冷水機用冷却水ポンプ		○		37.0	3				○									333	
3	ユーティリティ	PCD-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ			○	55.0	1			○										220	
4	ユーティリティ	PC-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ		○		37.0	1			○										148	
5	ユーティリティ	PC-2-1~3	冷水2次ポンプ	○			22.0	3	○	○							4,000	1.00	148	200	200	
6	ユーティリティ	PH-2-1~3	温水水2次ポンプ	○			15.0	3	○	○			○				4,000	0.40	106	0	0	

同一モーターで2つの仕様  
が選択されているため、該  
当の欄が赤くなっている。

空調2次ポンプの行で、II 1b.11空  
調1次ポンプの台数制御又はイン  
バータ制御による変流量制御の欄  
に“○”印が記入されているため、  
該当の欄が赤くなっている。



第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その4

熱源ポンプ

No	管理区分	機器記号	機器名称	No.2	No.3	No.4	No.1	-	II 1b.5	II 1b.6	II 1b.8			II 1b.11	II 1b.12	II 1b.13	II 1b.22	エネルギー使用量				
				種別			電動機出力 [kW]		台数	熱源2次ポンプの台数制御及びインバータによる変流量制御	熱源2次ポンプの3台以上に分割又は小容量ポンプ	永久磁石 (IPM) モータ	プレミアム効率 (IE3) モータ	高効率 (IE2) モータ	熱源1次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御	冷却水ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御	熱源2次ポンプの末端差圧制御	熱源2次ポンプの送水圧力設定制御	年間稼働時間 [h/年]	負荷率	推計値 [MWh/年]	実測値 [MWh/年]
取組状況の程度				-	-	-		-														
合計				111.0kW	148.0kW	220.0kW	479.0kW	14台	111.0kW	111.0kW	0.0kW	0.0kW	479.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW					
1	ユーティリティ	PCD-RH+1-3	直熱吸収冷水機用冷却水ポンプ			○	55.0	3				○									495	
2	ユーティリティ	PC-RH+1-3	直熱吸収冷水機用冷却水ポンプ		○		37.0	3				○									333	
3	ユーティリティ	PCD-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ			○	55.0	1			○										220	
4	ユーティリティ	PC-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ		○		37.0	1			○										148	
5	ユーティリティ	PC-2-1~3	冷水2次ポンプ	○			22.0	3	○	○							4,000	1.00	148	200	200	
6	ユーティリティ	PH-2-1~3	温水水2次ポンプ	○			15.0	3	○	○			○				4,000	0.40	106	0	0	

“○”印を削除すると、  
該当の欄が元に戻る。

蒸気ボイラーシート(第2号様式その1)

エネルギー使用量総括表に反映する。

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その1)

蒸気ボイラー		最も古い設備の設置年度		最も新しい設備の設置年度		II 1a.1							エネルギー使用量			
No	管理区分	設置年度	機器記号	蒸気ボイラー種類	ボイラー容量 [kW]	台数	定格エネルギー消費量			年間熱製造実績 [GJ/年]	ボイラー効率	年間稼働時間 [h/年]	負荷率	推計値 [GJ/年]	実測値 [GJ/年]	採用値 [GJ/年]
							冷熱源	温熱源	エネルギー種別							
取組状況の程度						—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計						1,000kW	1台	4,000MJ/h	—	0GJ/h	—	—	—	0GJ/年	0GJ/年	0GJ/年
1	ユーティリティ	2014	B-1	蒸気ボイラー	1,000	1	4,000.0	—	—	[MJ/h]ガス	0.900	—	—	—	—	
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																
26																
27																
28																
29																
30																

ガスの単位発熱量[GJ/千Nm3]は年度によって異なるため、2005～2006年度より古い機器は注意して入力する。(認定ガイドライン別表第2参照)

仕様をすべて把握していない場合は、空欄とする。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

熱源機器シート(第2号様式その2)

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その2)

熱源機器		最も古い設備の設置年度		最も新しい設備の設置年度		II 1b.1							エネルギー使用量										
No	管理区分	設置年度	機器記号	熱源機器種類	熱源容量 [kW]	台数	定格エネルギー消費量			再生可能エネルギー	インバーターボイラー冷凍機	年間熱製造実績 [GJ/年]		定格COP ボイラー効率		年間稼働時間 [h/年]		負荷率		推計値 [GJ/年]	実測値 [GJ/年]	採用値 [GJ/年]	
							冷熱源	温熱源	エネルギー種別			冷熱源	温熱源	冷熱源	温熱源	冷熱源	温熱源	冷熱源	温熱源				
合計						7,198kW	4,839kW	14台	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	ユーティリティ	2000	RH-12	直火吸収冷温水機	1,582	2	4,612.5	5,526.0	[MJ/h]ガス	—	—	1.23	0.86	2,000	1,000	0.20	0.20	5,900	—	14,934	14,934	—	
2	ユーティリティ	2014	RH-3	直火吸収冷温水機	1,582	1	4,221.0	5,310.0	[MJ/h]ガス	—	—	1.35	0.88	4,000	1,000	0.35	0.20	6,971	—	—	6,971	—	
3	ユーティリティ	2000	AHP-1	空気熱源ヒートポンプユニット	87	10	28.0	27.0	[kW]電気	—	—	3.11	3.33	3,000	—	0.30	—	—	252	—	996	996	
4	ユーティリティ	2000	TR-1	ターボ冷凍機	1,582	1	254.0	—	[kW]電気	—	—	6.23	—	4,000	—	0.40	—	—	406	—	—	406	
5																							
6																							
7																							
8																							
9																							
10																							
11																							
12																							
13																							
14																							
15																							
16																							
17																							
18																							
19																							
20																							
21																							
22																							
23																							
24																							
25																							
26																							
27																							
28																							
29																							
30																							

認定ガイドラインの熱源機種種の判断基準を参照し、熱源機器を選択する。

ガスの単位発熱量[GJ/千Nm3]は年度によって異なるため、2005～2006年度より古い機器は注意して入力する。(認定ガイドライン別表第2参照)

該当する場合は「○」印を選択する。

すべて把握していない場合は、空欄とする。

電動系熱源機は、原則として、主電動機ではなく、定格消費電力を入力する。なお、熱回収ヒートポンプユニット及び熱回収ターボ冷凍機の場合は、冷熱源及び温熱源共に、熱回収運転時の冷凍能力及び加熱能力の合計値に対する定格消費電力とする。

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

冷却塔シート(第2号様式その3)

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その3

No	管理区分	機器記号	機器名称	白煙防止形	冷却能力[kW]	電動機出力[kW]		II 1b.4 冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御	II 1b.7								エネルギー使用量					
						ファン	散水ポンプ		省エネ形	モータ直結形ファン	永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(IE3)モータ	高効率(IE2)モータ	永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(IE3)モータ	高効率(IE2)モータ	II 1b.16 冷却塔ファンのインバータ制御	年間稼働時間[h/年]	負荷率	推計値[MWh/年]	実測値[MWh/年]	採用値[MWh/年]
取組状況の程度				—	—	—	—	0%	83%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	—	—	—	—	—
合計				—	11,248.2kW	22.4kW	1.5kW	5台	0.0kW	18.7kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	—	—	29MWh/年	0MWh/年	29MWh/年
1	ユーティリティ	CT-1~3	直焚吸収冷温水機用	○	2,942.5	5.5	—	3	○	—	—	—	—	—	—	—	3,000	0.30	15	—	15	
2	ユーティリティ	CT-4	ターボ冷凍機用	—	2,056.6	2.2	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	4,000	0.40	4	—	4	
3	第1工場	CT-5	生産プロセス用	—	364.0	3.7	1.5	1	—	—	—	—	—	—	—	—	4,000	0.50	10	—	10	

開放式冷却塔の場合、電動機出力の散水ポンプの欄は空欄のままとする。

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

該当する場合は「○」印を選択する。

該当する場合は「○」印を選択する。

熱源ポンプシート(第2号様式その4)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その4

No	管理区分	機器記号	機器名称	No.2 No.3 No.4			電動機出力[kW]	II 1b.5 熱源2次ポンプの台数制御及びインバータによる変流量制御	II 1b.6 熱源2次ポンプの3台以上に分割又は小容量ポンプ	II 1b.8 永久磁石(IPM)モータ	II 1b.11 プレミアム効率(IE3)モータ	II 1b.12 高効率(IE2)モータ	II 1b.13 熱源1次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御	II 1b.12 冷却水ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御	II 1b.13 熱源2次ポンプの末端差圧制御	II 1b.22 熱源2次ポンプの送水圧力設定制御	エネルギー使用量					
				熱源2次ポンプ	熱源1次ポンプ	冷却水ポンプ											台数	100%	100%	0%	0%	100%
取組状況の程度				—	—	—	—	—	—	100%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	—	—	—	—	—
合計				111.0kW	148.0kW	220.0kW	479.0kW	14台	111.0kW	111.0kW	0.0kW	0.0kW	479.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	—	—	1,302MWh/年	200MWh/年	1,398MWh/年
1	ユーティリティ	PCD-RH-1~3	直焚吸収冷温水機用冷却水ポンプ	—	—	○	55.0	3	—	—	—	—	—	—	—	—	3,000	1.00	495	—	495	
2	ユーティリティ	PC-RH-1~3	直焚吸収冷温水機用冷水ポンプ	—	○	—	37.0	3	—	—	—	—	—	—	—	—	3,000	1.00	333	—	333	
3	ユーティリティ	PCD-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ	—	—	○	55.0	1	—	—	—	—	—	—	—	—	4,000	1.00	220	—	220	
4	ユーティリティ	PC-TR-1	ターボ冷凍機用冷水ポンプ	—	○	—	37.0	1	—	—	—	—	—	—	—	—	4,000	1.00	148	—	148	
5	ユーティリティ	PC-2-1~3	冷水2次ポンプ	○	—	—	22.0	3	○	○	—	—	—	—	—	—	4,000	0.40	106	200	200	
6	ユーティリティ	PH-2-1~3	温冷水2次ポンプ	○	—	—	15.0	3	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0	

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

認定ガイドラインを参照し、該当する種別に「○」印を選択する。

該当する場合は「○」印を選択する。

エネルギー使用量総括表に反映する。

変圧器シート(第2号様式その5)

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その5

変圧器

最も古い設備の設置年度  2008年度以降設置の設備の割合

No	管理区分	設置年度	用途	相	電圧[V]			600Vを超え7,000V以下	定格容量[kVA]	台数	II Id.1			エネルギー使用量				
					1次側	2次側					超高効率変圧器	トップランナー変圧器 2014	トップランナー変圧器	年間稼働時間 [h/年]	損失率	推計値 [MWh/年]	実測値 [MWh/年]	採用値 [MWh/年]
取組状況の程度					-	-	-	-	-	-	54%	32%	14%	-	-	-	-	-
合計					-	-	-	2,800kVA	2,800kVA	8台	1,500kVA	900kVA	400kVA	-	-	98MWh/年	0MWh/年	98MWh/年
1	ユーティリティ	2000	一般電灯	1φ3W	6,600	210-105	○	300	3		○		8,760	0.004	32		32	
2	ユーティリティ	2000	一般動力	3φ3W		210	○	500	3	○			8,760	0.004	53		53	
3	ユーティリティ	2000	非常保安電灯	1φ3W		210-105	○	100	1		○		8,760	0.004	4		4	
4	ユーティリティ	2000	非常保安動力	3φ3W		210	○	300	1		○		8,760	0.004	11		11	
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		

該当する場合は「○」印を選択する。

該当するものを選択する。

該当する場合は「○」印を選択する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

エアコンプレッサーシート(第2号様式その6)

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その6

エアコンプレッサー

最も古い設備の設置年度  2013年度以降設置の設備の割合

No	管理区分	設置年度	機器記号	機器名称	圧縮機電動機出力[kW]	台数	II 1e.1						II 1e.2		エネルギー使用量							
							インバータ制御	永久磁石(IPM)モータ	フレミム効率(IE3)モータ	高効率(IE2)モータ	2段圧縮方式	インバータ制御冷却ファン	増量制御方式	圧縮機・モータ直結構造	複数台圧縮機制御	台数制御	年間稼働時間 [h/年]	負荷率	推計値 [MWh/年]	実測値 [MWh/年]	採用値 [MWh/年]	
取組状況の程度							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計							550.0kW	2台	300.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	550.0kW	0.0%	-	-	-	-
1	ユーティリティ	2000	C-1	エアコンプレッサー-1	300.0	1	○										4,000	0.40	480		480	
2	ユーティリティ	2000	C-2	エアコンプレッサー-2	250.0	1											3,000	0.50	375		375	
3																						
4																						
5																						
6																						
7																						
8																						
9																						
10																						
11																						
12																						
13																						
14																						
15																						
16																						
17																						
18																						
19																						
20																						
21																						
22																						
23																						
24																						
25																						
26																						
27																						
28																						
29																						
30																						

該当する場合は「○」印を選択する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

給水・排水処理設備シート(第2号様式その7)

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その7

給水・排水処理設備

No	管理区分	機器記号	機器名称	種別			電動機出力 [kW]	台数	II 1f1			II 1f2			エネルギー使用量						
				加圧給水ポンプユニット	揚水ポンプ	排水処理用ポンプ・ブロウ			推定末端差圧一定インバータ制御ポンプユニット	給水ポンプ			排水処理用ポンプ・ブロウ			年間稼働時間 [h/年]	負荷率	推計値 [MWh/年]	実測値 [MWh/年]	給水設備採用値 [MWh/年]	排水処理設備採用値 [MWh/年]
										永久磁石 (IPM) モータ	プレミアム効率 (IE3) モータ	高効率 (IE2) モータ	永久磁石 (IPM) モータ	プレミアム効率 (IE3) モータ	高効率 (IE2) モータ						
取組状況の程度				—	—	—	—	—	100%	—	—	—	0%	0%	89%	—	—	—	—	—	—
合計				15.0kW	15.0kW	49.5kW	79.5kW	12台	15.0kW	0.0kW	0.0kW	15.0kW	0.0kW	0.0kW	44.0kW	—	—	486MWh/年	0MWh/年	53MWh/年	43MWh/年
1	ユーティリティ	PW-1	揚水ポンプ				7.5	2							8,760	0.10	13		13		
2	ユーティリティ	PW-2	給水ポンプユニット	○				15.0	1	○					8,760	0.30	39		39		
3	ユーティリティ	PD-1	排水処理ポンプ			○	5.5	8							8,760	1.00	385			385	
4	ユーティリティ	BD-1	排水処理ブロウ			○	5.5	1							8,760	1.00	48			48	
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					
21																					
22																					
23																					
24																					
25																					
26																					
27																					
28																					
29																					
30																					

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

該当するものを選択する。

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

該当する場合は「○」印を選択する。

パッケージ形空調機シート(第2号様式その8、その9)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その8)

2012年度以前の設置機器の場合は選択可能

パッケージ形空調機その1

No	管理区分	設置年度	機器記号	機器名称	種別					冷房能力 [kW]	暖房能力 [kW]	台数	使用用途			II 2a.1								
					空気熱源	水熱源	電気式	ガスエンジンヒートポンプ式	電算室用				一般空調用	厨房用	特殊空調用	高効率機器				設置方法				
取組状況の程度													0%	16%	84%	84%	84%	84%	<14.8m	52%	100%			
合計					625.0kW	0.0kW	325.0kW	0.0kW	0.0kW	625.0kW	690.0kW	9台	325.0kW	0.0kW	300.0kW	0.0kW	100.0kW	525.0kW	525.0kW	525.0kW	525.0kW	-	325.0kW	625.0kW
1	第1工場	2000	PAC-1	工場スポットPAC	○		○			75.0	86.0	3	○				○	○	○	○	<30m	○	○	
2	事務棟	2014	PAC-2	事務室PAC	○		○			50.0	56.0	2	○		3.63						<60m	○	○	
3	第1工場	2000	PAC-3	クリーンルームPAC	○					75.0	80.0	4					○	○	○	○	<30m		○	

機器名称は、使用用途が分かるように、システム名又は対象室等を必ず記入する。

該当する場合は「○」印を選択する。

必ず選択する。

認定ガイドラインを参照し、該当する種別に「○」印を選択する。

該当する場合は「○」印を選択する。

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その9)

パッケージ形空調機その2

No	管理区分	機器記号	機器名称	エネルギー使用量																
				定格エネルギー消費量 [kW]		年間稼働時間 [h/年]		負荷率		推計値		実測値		一般空調用採用値		厨房用採用値		特殊空調用採用値		
				冷房	暖房	冷房	暖房	冷房	暖房	燃料・熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	燃料・熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	燃料・熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	燃料・熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	燃料・熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	
取組状況の程度				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計				-	-	-	-	-	-	0GJ/年	573MWh/年	0GJ/年	0MWh/年	0GJ/年	120MWh/年	0GJ/年	0MWh/年	0GJ/年	450MWh/年	
1	第1工場	PAC-1	工場スポットPAC	21.0	21.0	3,000	1,000	0.40	0.30		95				95					
2	事務棟	PAC-2	事務室PAC	13.0	13.0	2,000	1,000	0.40	0.30		29				29					
3	第1工場	PAC-3	クリーンルームPAC	21.0	21.0	8,760	1,000	0.60	0.10		450							450		

定格エネルギー消費量年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

### 空調機シート(第2号様式その10、その11)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その10

空調機その1

No	管理区分	機器記号	機器名称	冷却能力 [kW]	加熱能力 [kW]	ファン電動機出力 [kW]	台数	使用用途					II 2a.3					II 2a.6	II 2a.14	II 2a.17													
								一般空調用	厨房用	特殊空調用	ファンフィルタユニット	クリーンルーム用	ダブルプラグファン	プラグファン	モータ直結形ファン	永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(IE3)モータ	高効率(IE2)モータ	橋内管熱交換器	空調機の変風量システム	大温度差送風空調システム	空調機の周欠運転制御											
取組状況の程度				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
合計				200.0kW	222.0kW	36.8kW	58台	13.0kW	7.5kW	16.3kW	10.8kW	5.5kW	7.5kW	7.5kW	7.5kW	0.0kW	0.0kW	13.0kW	0.0kW	7.5kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW			
1	第1工場	AHU-1	工場空調機	75.0	86.0	7.5	1	○																									
2	第1工場	AHU-2	クリーンルーム空調機	50.0	56.0	5.5	1			○																							
3	事務棟	OHU-1	厨房外調機	75.0	80.0	7.5	1		○																								
4	第1工場	FFU-1	クリーンルームFFU			0.2	54			○	○																						
5	事務棟	AHEX-1	全熱交換器			5.5	1	○																									
6																																	
7																																	
8																																	
9																																	
10																																	
11																																	
12																																	
13																																	
14																																	
15																																	
16																																	
17																																	
18																																	
19																																	
20																																	
21																																	
22																																	
23																																	
31																																	

該当する場合は「○」印を選択する。

機器名称は、使用用途が分かるように、系統名又は対象室等を必ず記入する。

該当する場合は「○」印を選択する。

### エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その11

空調機その2

No	管理区分	機器記号	機器名称	エネルギー使用量																															
				年間稼働時間 [h/年]		負荷率			推計値		実測値		一般空調用採用値		厨房外調機採用値		特殊空調用採用値																		
				冷房	暖房	冷房	暖房	ファン	熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]	熱 [GJ/年]	電気 [MWh/年]																	
取組状況の程度				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計				—	—	—	—	—	—	—	3,580GJ/年	164MWh/年	0GJ/年	0MWh/年	386GJ/年	37MWh/年	248GJ/年	23MWh/年	946GJ/年	105MWh/年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1	第1工場	AHU-1	工場空調機	3,000	1,000	0.40	0.20	0.50	386	15			386	15																					
2	第1工場	AHU-2	クリーンルーム空調機	8,760		0.60		0.60	946	29								946	29																
3	事務棟	OHU-1	厨房外調機	2,000	1,000	0.30	0.30	1.00	248	23						248	23																		
4	第1工場	FFU-1	クリーンルームFFU	8,760				0.80	76	7																									
5	事務棟	AHEX-1	全熱交換器	3,000	1,000			1.00	22	2				22																					
6																																			
7																																			
8																																			
9																																			
10																																			
11																																			
12																																			
13																																			
14																																			
15																																			
16																																			
17																																			
18																																			
19																																			
20																																			
21																																			
26																																			
27																																			
28																																			
29																																			
30																																			
31																																			

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

空調・換気用ファンシート(第2号様式その12)

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その12)

空調・換気用ファン

No	管理区分	機器記号	機器名称	電動機出力 [kW]	台数	II 2a.4				エネルギー使用量				
						モータ直結形ファン	永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(IE3)モータ	高効率(IE2)モータ	年間稼働時間 [h/年]	負荷率	推計値 [MWh/年]	実測値 [MWh/年]	採用値 [MWh/年]
取組状況の程度				—	—	0%	0%	0%	71%	—	—	—	—	—
合計				105.0kW	11台	0.0kW	0.0kW	0.0kW	75.0kW	—	—	422MWh/年	99MWh/年	429MWh/年
1	第1工場	FS-1	工場給気ファン	7.5	2					4,000	1.00	80		60
2	第1工場	FE-1	工場排気ファン	15.0	3					4,000	1.00	180		180
3	ユーティリティ	FE-2	機械室排気ファン	7.5	2					3,000	1.00	45		45
4	事務棟	FE-3	厨房排気ファン	7.5	2					3,000	1.00	45		45
5	第1工場	FE-4	クリーンルーム排気ファン	7.5	2					8,760	0.70	92	99	99
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

機器名称は、使用用途が分かるように、系統名又は対象室等を必ず記入する。

該当する場合は「○」印を選択する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

照明器具シート(第2号様式その13)

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所)その13)

照明器具

No	管理区分	器具番号	室名称等	ランプワット数 [W]	1台あたりの灯数	1台あたりの消費電力 [W]	台数	II 2b.1			エネルギー使用量				
								主たるランプ種類	高効率ランプ	高反射率板	年間点灯時間 [h/年]	負荷率	推計値 [MWh/年]	実測値 [MWh/年]	採用値 [MWh/年]
取組状況の程度				—	—	—	—	—	99%	0%	—	—	—	—	
合計				—	—	375.1kW	6,400台	—	370.6kW	0.0kW	—	—	1,082MWh/年	0MWh/年	1,082MWh/年
1	第1工場	a1	工場	32	2	64	3,000	直管形蛍光ランプ HF(FHF,FHC)	1.0			4,000	0.80	614	614
2	事務棟	a1	事務室	32	2	64	2,000	直管形蛍光ランプ HF(FHF,FHC)	1.0			3,000	0.80	307	307
3	事務棟	b1	便所	6	1	6	100	高効率LED	1.0			3,000	0.70	1	1
4	事務棟	c1	廊下	15	1	15	300	直管形蛍光ランプ FLR,FSL				3,000	0.70	9	9
5	第1工場	d1	工場	50	1	50	1,000	メタルハライドランプ	1.0			3,000	1.00	150	150
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															

認定ガイドラインの照明器具の判断基準を参照し、主たるランプを選択する。

該当する場合は「○」印を選択する。

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。



昇降機ファンシート(第2号様式その14)

エネルギー使用量総括表に反映する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その14

No	管理区分	号機名	電動機出力 [kW]	台数	エレベーターが複数台設置してある箇所	II 2d.1	II 2d.2	II 2d.3	II 2d.4	エネルギー使用量				
						VVVF制御方式	群管理制御	かご内の照明、ファン等の不使用時停止制御	電力回生制御	年間稼働時間 [h/年]	負荷率	推計値 [MWh/年]	実測値 [MWh/年]	採用値 [MWh/年]
取組状況の程度						100%	100%	75%	60%	—	—	—	—	—
合計			37.5kW	4台	22.5kW	37.5kW	22.5kW	3台	22.5kW	—	—	164MWh/年	20MWh/年	119MWh/年
1	事務棟	1~3号機	7.5	3	○	○	○	○	○	8,760	0.50	99	—	89
2	第1工場	4号機	15.0	1	○	○				8,760	0.50	66	20	20
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														

該当する場合は「○」印を選択する。

同一のエレベーターバンクで群管理が可能なのは「○」印を選択する。

年間稼働時間及び負荷率、又は実測値のいずれかを入力する。

計測している場合は、入力する。複数の機器がまとめて計測されている場合は、エネルギー使用量の推計値で按分した値を入力する。

6 評価書シート(第1号様式その1)

総合的な評価結果の確認

- ・ 入力が入力完了すると、認定申請事業所の地球温暖化対策推進状況の評価結果が、評価書シートに表示される。
- ・ 総合得点及び必須要件によって、認定申請事業所がトップレベル事業所等の認定水準を満足しているかどうか確認できる。
- ・ 要求事項別の評価結果から、認定申請事業所において優れている点や、今後重点的に取り組むべき対策等が確認できる。

評価結果確認用

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その1

### 地球温暖化対策推進状況評価書(第二区分事業所)

**事業所の概要**

指定番号	100001		
事業者の氏名	東京環境工業株式会社 代表取締役社長 東京 太郎		
事業所の名称	東京環境工業 東京工場		
施設用途	工場		
敷地面積	100,000 m <sup>2</sup>	延床面積又は事業所の床面積	100,000 m <sup>2</sup> 棟数 20 棟
階数 地上	2 階	竣工年月	2000年4月
基準排出量	25,000 t-CO <sub>2</sub> /年	前年度CO <sub>2</sub> 排出量実績	22,500 t-CO <sub>2</sub> /年 225.0 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
		前年度一次エネルギー消費量実績	450,000 GJ/年 4,500 MJ/m <sup>2</sup> ・年

**総合評価結果**

基礎得点	74.5 点	判定	○	準トップレベル事業所の認定水準を満足しています。
総合得点	89.4 点	不合格要件の数	1	

総合得点の構成

基礎得点の得点率バランス

基礎得点の得点バランス

● I 一般管理事項  
 ● II ユーティリティ設備等の省エネルギー性能  
 ● III 建築物の省エネルギー性能  
 ● IV 再生可能エネルギー・太陽光発電の導入  
 ● V 生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能  
 ● VI ユーティリティ設備等の運用管理  
 ● VII ユーティリティ設備等の保守管理  
 ● VIII 建築物の運用管理  
 ● IX 建築物の保守管理  
 ● X 生産・プラント・特殊設備の運用管理  
 ● XI 生産・プラント・特殊設備の保守管理

**要求事項別の評価結果**

**I 一般管理事項**

- CO<sub>2</sub>削減推進体制の整備
- 図面・管理標準等の整備
- 主要設備等に関する計測・計量及び記録
- エネルギー消費量・CO<sub>2</sub>排出量の管理
- 保守・点検の管理

**II 設備及び建物の性能に関する事項**

- ユーティリティ設備の省エネルギー性能
  - 蒸気供給設備
  - 熱源・熱搬送設備、冷却設備
  - 圧縮空気供給設備
  - その他(c,d,f)
- 建築設備の省エネルギー性能
  - 空調・換気設備
  - 照明設備
  - その他(2c-e, 3, 4)
- 生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能
  - 燃料及び熱(5a-d)
  - 電気(5e)
  - 特殊設備他(5f-j)

**III 設備及び事業所の運用に関する事項**

- ユーティリティ設備の運用管理
  - 蒸気供給設備
  - 熱源・熱搬送設備、冷却設備
  - 圧縮空気供給設備
  - その他(c,d,f)
- ユーティリティ設備の保守管理
- 建築物の運用管理
  - 空調・換気設備
  - 照明設備
  - その他(3c-e)
- 建築物の保守管理
- 生産・プラント・特殊設備の運用管理
  - 燃料及び熱(5a-d)
  - 電気(5e)
  - 特殊設備他(5f-j)
- 生産・プラント・特殊設備の保守管理

要求事項別の評価結果が表示されるので、今後、重点的に取り組む削減対策の参考にすることが可能である。

**特記事項**

トップレベル事業所の認定水準を満足しているかどうか、結果が出力される。

7 評価結果シート(第1号様式その4からその12)

評価項目ごとの評価分類、評価点、重み係数、得点の確認

- 各評価項目の不合格の要件、評価点、重み係数、得点、評価項目の区分ごとの得点集計を確認する。
- 取組が優れている評価項目や、今後重点的に取組むべき評価項目が確認できる。
- 評価分類欄の、◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を示す。

評価結果確認用シート

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その4

地球温暖化対策推進状況評価結果一覧表(第二区分事業所)								
※ 評価分類の欄の◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を示す。 不合格の要件の欄の×印は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない場合を示す。								
評価項目の区分	評価分類	No.	評価項目	不合格要件	評価点	重み係数	得点	得点集計
I	CO2削減推進体制の整備	◎ 1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催		1	0.400	0.400	0.940 +0.000
		◎ 1.2	PDCA管理	緩和措置が適用された評価項目は、評価分類が変更となる。	0.8	0.300	0.240	
		○ 1.3	ISO14001		1	0.150	0.150	
		○ 1.4	CO2削減		1	0.150	0.150	
		+ 1.5	エネルギー管理履歴等、省エネ人員等の表彰		0	0.160	0.000	
	2. 図面、管理標準等の整備	◎ 2.1	図面・改修履歴等の整備		1			必須要件を満足しない場合には「×」印が表示される。
		◎ 2.2	設備台帳等の整備		1			
		◎ 2.3	管理標準等の整備		1			
	3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	◎ 3.1	エネルギー管理システムの導入		1			+0.000
		◎ 3.2	電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入		1	0.300	0.300	
		◎ 3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	×	0	0.600	0.000	
		◎ 3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		0.7	0.600	0.420	
		◎ 3.5	管理日報・月報・年報の作成		1	0.150	0.150	
		○ 3.6	ユーティリティ設備の分析に必要な計測・計量設備の導入		1	0.600	0.600	
		○ 3.7	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		1	0.300	0.300	
	4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	◎ 4.1	生産工程・処理工程のエネルギー管理		1	0.225	0.225	+0.000
		◎ 4.2	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理		1	0.450	0.450	
		◎ 4.3	CO2排出量の管理		1	0.225	0.225	
		◎ 4.4	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施		1	1.125	1.125	
		◎ 4.5	CO2削減対策の啓発活動の実施		1	0.450	0.450	
◎ 4.6		改善策の立案・実施及び効果検証の実施		1	1.575	1.575		
○ 4.7		ユーティリティ設備の運転解析の実施		0.8	0.450	0.360		
+ 4.8		従業員等への環境・エネルギー情報提供システムの導入		0	0.360	0.000		
5. 保守・点検の管理	◎ 5.1	保守・点検計画の策定及び実施		1	0.500	0.500	0.500	
I 設備及び建物の性能に関する事項	a. 蒸気供給設備	◎ 1a.1	高効率蒸気ボイラーの導入		1	2.671	2.671	5.107 +1.374
		◎ 1a.2	蒸気ボイラーのエコノマイザー又はエアーヒーターの導入		-	-	-	
		◎ 1a.3	蒸気弁・フランジ部の断熱		1	0.312	0.312	
		◎ 1a.4	蒸気ドレンタンクの断熱		1	0.016	0.016	
		◎ 1a.5	蒸気ボイラーの台数制御の導入		1	0.921	0.921	
		○ 1a.6	蒸気ドレン回収設備の導入		1	0.500	0.500	
		○ 1a.7	蒸気ドレンのクローズド回収方式の導入		1	0.578	0.578	
		○ 1a.8	蒸気ボイラーの小型分散システムの導入		1	0.109	0.109	
		+ 1a.9	省エネ型スチームトラップの導入		0.5	0.250	0.125	
		+ 1a.10	蒸気ボイラーの押込送風機インバータ制御の導入		1	0.012	0.012	
		+ 1a.11	不要蒸気配管の撤去・蒸気配管ルート・サイズの変更		1	0.500	0.500	
		+ 1a.12	圧力差タービンの導入		0	0.100	0.000	
		+ 1a.13	フラッシュ蒸気利用設備の導入		0	0.737	0.000	
		+ 1a.14	蒸気減圧エネルギー動力回収設備の導入		0	0.112	0.000	
		+ 1a.15	アキュムレーター導入		1	0.737	0.737	
		+ 1a.16	負荷に適した容量のパーナーへの変更		0	0.737	0.000	
		II 設備及び建物の性能に関する事項	b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備	◎ 1b.1	高効率熱源機器の導入		0.803	
○ 1b.2	水搬送経路の密閉化				1	0.505	0.505	
○ 1b.3	熱源の台数制御の導入				1	0.905	0.905	
○ 1b.4	冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御の導入				0	0.294	0.000	
○ 1b.5	熱源2次ポンプ変流量制御の導入				1	0.352	0.352	
○ 1b.6	熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入				1	0.215	0.215	
+ 1b.7	高効率冷却塔の導入				0.56	0.762	0.427	
+ 1b.8	高効率熱源ポンプの導入				0.8	0.647	0.517	
+ 1b.9	大温度差送水システムの導入				0.8	1.617	1.293	
+ 1b.10	熱源機器出口設定温度の遠方制御の導入				0	0.290	0.000	
+ 1b.11	熱源1次ポンプ変流量制御の導入				0	0.458	0.000	
+ 1b.12	冷却水ポンプ変流量制御の導入				0	0.773	0.000	
+ 1b.13	熱源2次ポンプの末端差圧制御の導入				0	0.102	0.000	
+ 1b.14	熱交換器の断熱				0.5	0.338	0.169	
+ 1b.15	蓄熱システムの導入				0	2.414	0.000	
+ 1b.16	冷却塔ファンインバータ制御の導入				0	0.024	0.000	
+ 1b.17	フリークーリングシステムの導入				0	1.448	0.000	
+ 1b.18	冷却水ろ過冷却リサイクルシステムの導入				1	0.061	0.061	
+ 1b.19	冷却水ON/OFF制御システムの導入				0	0.046	0.000	
+ 1b.20	中温冷水利用システムの導入				0	0.965	0.000	
+ 1b.21	統合熱源制御システムの導入				0	1.931	0.000	
+ 1b.22	熱源2次ポンプの送水圧力設定制御の導入				0	0.078	0.000	

必須項目及び一般項目の得点

加点項目の得点

## 8 重み係数シート

### 評価項目ごとの重み係数の内訳の確認

- ・ 評価項目ごとの重み係数の内訳を確認する。
- ・ メインシートの入力事項と、基本情報入力シートの適用範囲補正係数が、正しく反映されているかを適用範囲補正係数の欄で確認する。

### 評価結果確認用シート

#### 地球温暖化対策推進状況評価 重み係数一覧表（第二区分事業所）

※ 評価分類の欄の◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を示す。

評価項目の区分	評価分類	No.	評価項目	要求事項配分比率又はエネルギー消費先比率	要求事項内の配分比率又は省13率	適用範囲補正係数	得点換算係数	重み係数
I 一般管理事項	1. CO2削減推進体制の整備	◎ 1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	0.1	0.4	1	10,000	0.400
		◎ 1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備		0.3	1	10,000	0.300
		○ 1.3	ISO14001の取得		0.15	1	10,000	0.150
		○ 1.4	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度の導入		0.15	1	10,000	0.150
		+ 1.5	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞等の表彰		0.2	1	8,000	0.160
	2. 図面、管理標準等の整備	◎ 2.1	図面・改修履歴等の整備	0.1	0.3	1	10,000	0.300
		◎ 2.2	設備台帳等の整備		0.3	1	10,000	0.300
		◎ 2.3	管理標準等の整備		0.4	1	10,000	0.400
	3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	◎ 3.1	エネルギー管理システムの導入	0.3	0.25	1	10,000	0.750
		◎ 3.2	電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入		0.1	1	10,000	0.300
		◎ 3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		0.2	1	10,000	0.600
		◎ 3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		0.2	1	10,000	0.600
		◎ 3.5	管理日報・月報・年報の作成		0.05	1	10,000	0.150
		○ 3.6	ユーティリティ設備の分析に必要な計測・計量設備の導入		0.2	1	10,000	0.600
	4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	◎ 4.1	生産工程・処理工程のエネルギー管理	0.45	0.05	1	10,000	0.225
		◎ 4.2	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理		0.1	1	10,000	0.450
		◎ 4.3	CO2排出量の管理		0.05	1	10,000	0.225
		◎ 4.4	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施		0.25	1	10,000	1.125
		◎ 4.5	CO2削減対策の啓発活動の実施		0.1	1	10,000	0.450
		◎ 4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施		0.35	1	10,000	1.575
○ 4.7		ユーティリティ設備の運転解析の実施	0.1		1	10,000	0.450	
+ 4.8		従業員等への環境・エネルギー情報提供システムの導入	0.1		1	8,000	0.360	
5. 保守・点検の管理	◎ 5.1	保守・点検計画の策定及び実施	0.05	1	1	10,000	0.500	

## 9 評価結果貼付用シート

- ・ 地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）【複数管理者用】の作成時のみ使用する。
- ・ 使用方法については、第2章を参照する。

### 評価結果確認用シート

■ の範囲をコピーして、複数管理者用評価結果シートに値を貼り付ける

#### 地球温暖化対策推進状況評価結果一覧表（第二区分事業所）【複数管理者用貼付用】

※ 評価分類の欄の◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を示す。  
不合格の要件の欄の×印は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない場合を示す。

評価項目の区分	No.	評価項目	評価分類	不合格要件	得点	最高得点	
I 一般管理事項	1. CO2削減推進体制の整備	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	◎	0.400	0.400	
		1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備	◎	0.240	0.300	
		1.3	ISO14001の取得	○	0.150	0.150	
		1.4	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度の導入	○	0.150	0.150	
		1.5	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞等の表彰	+	0.000		
	2. 図面、管理標準等の整備	2.1	図面・改修履歴等の整備	◎	0.300	0.300	
		2.2	設備台帳等の整備	◎	0.300	0.300	
		2.3	管理標準等の整備	◎	0.400	0.400	
	3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	3.1	エネルギー管理システムの導入	◎	0.750	0.750	
		3.2	電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	◎	0.300	0.300	
		3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	◎	×	0.000	0.600
		3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	◎	0.420	0.600	
		3.5	管理日報・月報・年報の作成	◎	0.150	0.150	
		3.6	ユーティリティ設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	○	0.600	0.600	
	4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	4.1	生産工程・処理工程のエネルギー管理	◎	0.225	0.225	
		4.2	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	◎	0.450	0.450	
		4.3	CO2排出量の管理	◎	0.225	0.225	
		4.4	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施	◎	1.125	1.125	
		4.5	CO2削減対策の啓発活動の実施	◎	0.450	0.450	
		4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施	◎	1.575	1.575	
4.7		ユーティリティ設備の運転解析の実施	○	0.360	0.450		
4.8		従業員等への環境・エネルギー情報提供システムの導入	+	0.000			
5. 保守・点検の管理	5.1	保守・点検計画の策定及び実施	◎	0.500	0.500		

## 第2章 地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）【複数エネルギー管理責任者用】

### 1 全体構成

1つの認定申請事業所に、複数のエネルギー管理責任者が存在し、評価項目の取組状況の一括した把握が難しい場合であって、エネルギー管理責任者ごとのエネルギー管理区分の範囲及びエネルギー管理区分ごとのエネルギー使用量が明確に区別できるときは、エネルギー管理責任者ごとに地球温暖化対策推進状況評価書（第二区分事業所）を作成し、それぞれの評価結果を地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）【複数エネルギー管理責任者用】を用いて集計することが可能である。

認定申請事業のエネルギー管理区分ごとに、地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）を用いて評価した結果を、評価結果貼付用シートよりコピーし、地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）【複数エネルギー管理責任者用】の複合版評価結果シートに値形式で貼り付けることで、認定申請事業所全体の評価が可能である。

認定申請事業所としての各評価項目の得点は、エネルギー管理責任者ごとに算出された評価項目ごとの得点を、エネルギー管理責任者ごとのエネルギー消費量が認定申請事業所全体のエネルギー消費量に占める割合で加重平均した数値となる。

#### 地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）【複数エネルギー管理責任者用】

##### 入力用

The input section contains two main sheets: a 'Main Sheet for Multiple Managers' (Sheet 32) and 'Evaluation Result Sheets for Multiple Managers' (Sheets 33-40). The main sheet includes fields for company information, energy management details, and a large table for recording evaluation results across various categories and energy management divisions.

複数管理者用メインシート  
第1号様式その32

複数管理者用評価結果シート  
第1号様式その33からその40

値形式で  
貼り付け

6つまで  
可能

#### 地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）

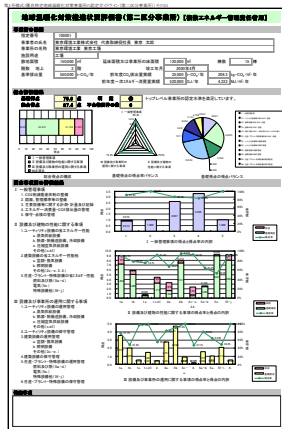
##### 評価結果確認用

This table displays the evaluation results for multiple energy management divisions. It features columns for 'Energy Management Division', 'Evaluation Item', 'Score', and 'Weighted Average Score'. The rows list various evaluation items such as 'Energy Conservation Measures', 'Renewable Energy Utilization', and 'Energy Management System Improvement'.

##### 評価結果貼付用シート

地球温暖化対策推進状況評価ツール  
（第二区分事業所）

##### 評価結果確認用



複数管理者用評価書シート 第1号様式その31

地球温暖化対策推進状況評価ツール  
（第二区分事業所）  
【複数エネルギー管理責任者用】

## 2 各シートの記入要領及び記入例

地球温暖化対策推進状況評価ツール（第二区分事業所）【複数エネルギー管理責任者用】のファイルを開くと、複数管理者用メインシートが表示される。

### 1 複数管理者用メインシート(第1号様式その32)

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その32

#### 評価・検証の概要

評価日	2017年6月1日	報告	2021年度	認定年度	2020年度
評価者	会社名等 所属 氏名	認定申請	2020年度		
氏名	東京 次郎				
検証日	2017年8月1日				
検証者	会社名等 所属 氏名				
氏名	日本 花子				

報告の際には、プルダウンから「報告」を選択する。

報告 2021年度 認定年度 2020年度

認定申請 2020年度

Ver. III 2018.0

「報告」を選択すると認定年度の入力欄が表示される。

「2020」のように半角数字を入力する。

評価者は、認定申請事業所全体の評価ツールの作成責任者とする。

認定申請事業所全体の数値を入力する。

#### 事業所の概要

指定番号	100001				
地球温暖化対策事業者の氏名	東京環境工業株式会社 代表取締役社長 東京 太郎				
事業所の名称	東京環境工業 東京工場				
主たる用途	工場				
敷地面積	150,000 m <sup>2</sup>	延床面積又は事業所の床面積	120,000 m <sup>2</sup>	棟数	15 棟
階数	2 階	竣工年月	2000年4月		
基準排出量	550,000 t-CO <sub>2</sub> /年	前年度CO <sub>2</sub> 排出量実績	25,000 t-CO <sub>2</sub> /年	208.3 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年	
		前年度一次エネルギー消費量実績	520,000 GJ/年	4,333 MJ/m <sup>2</sup> ・年	

年月の入力欄は、「2012/4」のように、「年(西暦)/月」と入力する。

評価No.及び用途ごとに入力

#### 用途別床面積

用途名	床面積[m <sup>2</sup> ]						計	床面積比率
	評価No.1	評価No.2	評価No.3	評価No.4	評価No.5	評価No.6		
事務所	6,500	3,000	4,800				14,300	11.9%
食堂・厨房	300		200				500	0.4%
電算室	200						200	0.2%
工場・プラント(空調)	30,000	10,000					40,000	33.3%
工場・プラント(換気)	60,000						60,000	50.0%
冷凍・冷蔵庫		2,000					2,000	1.7%
特殊空調室	3,000						3,000	2.5%
	100,000	15,000	5,000				120,000	100.0%
	83.3%	12.5%	4.2%				100.0%	—

評価No.及びエネルギー消費先区分ごとに入力

#### エネルギー消費先比率

エネルギー消費先区分		採用値[GJ/年]						採用値	
区分	細目	評価No.1	評価No.2	評価No.3	評価No.4	評価No.5	評価No.6		計
ユーティリティ設備等	蒸気供給	36,488	4,520					41,008	7.4%
	熱源	32,970	7,740					40,710	7.3%
	冷却塔	811	270					1,081	0.2%
	熱搬送	4,601	2,010					6,611	1.2%
	コージェネ	20,000						20,000	3.6%
	受変電	13,227	970	320				14,517	2.6%
	圧縮空気	3,660	920					4,580	0.8%
	給排水	3,582	840	80				4,502	0.8%
	給湯	40	30	70				140	0.0%
	排水処理	2,372	12,200					14,572	2.6%
建築設備	一般パッケージ空調	11,481	780	4,780				17,041	3.1%
	一般空調機	8,666	3,540					12,206	2.2%
	換気	16,874	1,430	620				18,924	3.4%
	照明	40,279	5,860	2,020				48,159	8.6%
	昇降機	335		250				585	0.1%
	コンセント	6,223	1,960	1,840				10,023	1.8%
	厨房	231		450				681	0.1%
生産設備	燃料燃焼	31,016	1,250					32,266	5.8%
	熱利用	5,859	3,320					9,179	1.6%
	電動力応用	142,514	6,340					148,854	26.7%
	電気加熱	22,775	920					23,695	4.3%
								47,856	8.6%
							700	0.8%	
							25,200	4.5%	
							10,004	1.8%	
	輸送	342						342	0.1%
計	全般	487,405	59,600	10,430				557,435	100.0%
	比率	87.4%	10.7%	1.9%				100.0%	—

認定申請事業所全体のエネルギー消費先別のエネルギー消費比率が自動計算される



3 複数管理者用評価書シート(第1号様式その31)

評価結果の確認

- ・ 複数管理者用評価結果シートへの値貼り付けが終了すると、認定申請事業所の地球温暖化対策推進状況の評価結果が、複数管理者用評価書シートに表示される。
- ・ 総合得点及び必須要件によって、認定申請事業所がトップレベル事業所等の認定水準を満足しているかどうか確認できる。
- ・ 要求事項別の評価結果から、認定申請事業所において優れている点や、今後重点的に取り組むべき対策等が確認できる。

評価結果確認用

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第二区分事業所))その31

### 地球温暖化対策推進状況評価書(第二区分事業所)【複数エネルギー管理責任者用】

**事業所の概要**

指定番号	100001		
事業者の氏名	東京環境工業株式会社 代表取締役社長 東京 太郎		
事業所の名称	東京環境工業 東京工場		
施設用途	工場		
敷地面積	150,000 m <sup>2</sup>	延床面積又は事業所の床面積	120,000 m <sup>2</sup> 棟数 15 棟
階数 地上	2 階	竣工年月	2000年4月
基準排出量	550,000 t-CO <sub>2</sub> /年	前年度CO <sub>2</sub> 排出量実績	25,000 t-CO <sub>2</sub> /年 208.3 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
		前年度一次エネルギー消費量実績	520,000 GJ/年 4,333 MJ/m <sup>2</sup> ・年

---

**総合評価結果**

基礎得点	75.9 点	判定	◎	トップレベル事業所の認定水準を満足しています。
総合得点	87.4 点	不合格要件の数	0	

総合得点の構成

基礎得点の得点率バランス

基礎得点の得点バランス

**要求事項別の評価結果**

**I 一般管理事項**

- CO<sub>2</sub>削減推進体制の整備
- 図面・管理標準等の整備
- 主要設備等に関する計測・計量及び記録
- エネルギー消費量・CO<sub>2</sub>排出量の管理
- 保守・点検の管理

**II 設備及び建物の性能に関する事項**

- ユーティリティ設備の省エネルギー性能
  - 蒸気供給設備
  - 熱源・熱搬送設備、冷却設備
  - 圧縮空気供給設備
  - その他(c.d.f.)
- 建築設備の省エネルギー性能
  - 空調・換気設備
  - 照明設備
  - その他(2c-e, 3, 4.)
- 生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能
  - 燃料及び熱(5a-d)
  - 電気(5e)
  - 特殊設備他(5f-j)

**III 設備及び事業所の運用に関する事項**

- ユーティリティ設備の運用管理
  - 蒸気供給設備
  - 熱源・熱搬送設備、冷却設備
  - 圧縮空気供給設備
  - その他(c.d.f.)
- ユーティリティ設備の保守管理
- 建築設備の運用管理
  - 空調・換気設備
  - 照明設備
  - その他(3c-e.)
- 建築設備の保守管理
- 生産・プラント・特殊設備の運用管理
  - 燃料及び熱(5a-d)
  - 電気(5e)
  - 特殊設備他(5f-j)
- 生産・プラント・特殊設備の保守管理

**特記事項**

トップレベル事業所の認定水準を満足しているかどうか、結果が出力される。

要求事項別の評価結果が表示されるので、今後、重点的に取り組む削減対策の参考にすることが可能である。



### 3 地球温暖化対策推進状況評価書(第二区分事業所)【複数エネルギー管理責任者用】作成上の注意点

地球温暖化対策推進状況評価書(第二区分事業所)【複数エネルギー管理責任者用】を作成する上で、地球温暖化対策推進状況評価書(第二区分事業所)各様式の作成上の注意点を以下の通り説明する。

#### メインシート 第1号様式その2

- ・ 評価・検証の概要の内、評価日、評価者はエネルギー管理区分ごとに入力し、検証日、検証者は未入力とする。
- ・ 事業所の概要の内、地球温暖化対策事業者の氏名、事業所の名称は、エネルギー管理区分ごとの判別ができるように入力する。評価No.の欄は、エネルギー管理区分ごとに番号を選択する。
- ・ 事業所の概要の内、延床面積又は事業所の床面積、前年度CO<sub>2</sub>排出量実績、前年度一次エネルギー消費量実績の3項目は、エネルギー管理区分ごとの数値を入力する。その際、エネルギー管理責任者ごとの数値の合計が、認定申請事業所全体の数値と合致するように注意する。その他の項目は、認定申請事業所全体の数値を入力する。竣工年月(西暦)は、認定申請事業所のすべての建物の中で最も古い建物の竣工年度を入力する。主たる用途は認定申請事業所全体で同一の用途を選択する。
- ・ 用途別床面積は、エネルギー管理責任者ごとのエネルギー管理区分を対象にした数値を入力する。その際、エネルギー管理責任者ごとの数値の合計が、認定申請事業所全体の数値と合致するように注意する。

#### エネルギー使用量総括表シート 第1号様式その3

- ・ エネルギー管理区分ごとに、設備・機器、エネルギー使用量を入力し、エネルギー消費先を選択する。他のエネルギー管理区分との重複や集計漏れがないよう注意する。

#### 基本情報入力シート 第1号様式その13

- ・ エネルギー管理区分ごとの数値を入力する。他のエネルギー管理区分との重複や入力漏れがないよう注意する。

#### 取組状況入力シート 第1号様式その14からその30

- ・ エネルギー管理区分ごとに、取組状況を入力する。他のエネルギー管理区分との重複や入力漏れがないよう注意する。
- ・ 各設備の設置年度は、認定申請事業所全体の設備を対象とし、その中で最も新しい設備の設置年度及び最も古い設備の設置年度を入力する。

地球温暖化対策推進状況評価ツール(第二区分事業所)  
第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業者の認定ガイドライン(第二区分事業所)その2)

Ver. 1.0.15 (β)

評価・検証の概要  
 評価日 2017年6月1日  
 評価者 会社名等 株式会社 所属 氏名 東京 次郎  
 検証日 2017年6月1日  
 検証者 会社名等 株式会社 所属 氏名 日本 花子

事業所の概要  
 指定番号 13001  
 地球温暖化対策事業者の氏名 東京環境工業株式会社 代表取締役社長 東京 太郎  
 事業所の名称 東京環境工業 東京工場  
 主たる用途 工場  
 敷地面積 100,000 m<sup>2</sup> 延床面積又は事業所の床面積 100,000 m<sup>2</sup>  
 階数 地上 2 階 竣工年月 2000年  
 基準排出量 25,000 t-CO<sub>2</sub>/年 前年度CO<sub>2</sub>排出量実績 22,500 t-CO<sub>2</sub>/年 225.0 t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>・年  
 前年度一次エネルギー消費量実績 450,000 GJ/年 4,500 MJ/m<sup>2</sup>・年

用途別床面積  
 ※ 床面積は各用途の共用部分を念頭に記載し、複合用途の場合は各床共用面積を各用途の面積比で割ったものを各用途の面積に加えた数値とする。

用途名	含まれる用途	床面積 [GJ/年]	床面積 比率
事務所	事務室、会議室、図書室、研究室等	4,500	4.5%
食堂・厨房	食堂、レストラン、喫茶店、厨房等	300	0.3%
電気室	電気室、サーバー室、コンピュータ室、CPU室、マシン室等	200	0.2%
工場・プラント(空調)	工場、プラント、実験室、試験室等のうち、大分に空調設備のある建屋	30,000	30.0%
工場・プラント(換気)	工場、プラント、実験室、試験室等のうち、主に自然換気等の空調設備のない建屋、倉庫、エレベーター等	60,000	60.0%
冷凍・冷蔵庫	冷凍庫、冷蔵庫、冷凍冷蔵倉庫等	3,000	3.0%
特殊空調室	クリーンルーム、恒温恒湿室、変温室	100,000	100.0%
合 計		100,000	100.0%

エネルギー消費先比率  
 ※ エネルギー使用量取組採用量の欄(数値)にて記載してください。

区分	項目	主なエネルギー消費機器	実績値 [GJ/年]	総括値 [GJ/年]	採用率	採用率
ユーティリティ設備等	高気供給	高気ボイラー等	36,488	36,488	36,488	6.0%
	熱源	冷凍機、温水機、温水ボイラー等	118,643	140,971	140,971	23.3%
	冷却機	冷却塔等	4,578	4,578	4,578	0.8%
	熱源等	空調ポンプ、空調二次ポンプ、冷却水ポンプ等	19,870	19,870	19,870	3.2%
	ユーティリティ設備等	ユーティリティ設備等	3,880	3,880	3,880	0.6%
	受変電	変圧器、蓄電池等	18,592	18,592	18,592	3.1%
	圧縮空気	エアコンプレッサ等	3,582	3,582	3,582	0.6%
	給排水	給水ポンプ等	40	4,444	4,444	0.7%
	給湯	給湯ボイラー、循環ポンプ、電気温水器、ガス湯沸き等	2,372	2,372	2,372	0.4%
	排水処理	排水処理設備、プンプ等	11,481	11,481	11,481	1.9%
機械設備	一般空調機	一般空調用空調機、ファンコイルユニット等	8,666	8,666	8,666	1.4%
	換気	給排気ファン等	16,874	16,874	16,874	2.8%
	照明	照明器具等	40,279	40,279	40,279	6.7%
	昇降機	エレベーター、ダムウエーター、リフト等	335	335	335	0.1%
	エレベーター	エレベーター、ダムウエーター、リフト等	6,223	6,223	6,223	1.0%
	扇風機	扇風機、ファン等	231	231	231	0.0%
	燃料燃焼	工業炉、乾燥炉、溶接機等	31,016	31,016	31,016	5.1%
	熱利用	電気加熱装置、蒸気機、冷卻装置等	5,859	5,859	5,859	1.0%
	電力応用	成形機、ミキサー、コンベア、ポンプ、ファン、ブロー等	121,450	142,514	142,514	23.8%
	電気加熱	乾燥炉、アーク炉、抵抗炉、電気溶接機等	22,755	22,755	22,755	3.8%
生産・プラント・特殊設備	特殊空調機	クリーンルーム、恒温恒湿室、変温室、動物実験室用空調機等	47,856	47,856	47,856	7.9%
	冷凍・冷蔵	冷凍庫、冷蔵庫等	25,200	25,200	25,200	4.2%
	特殊排気	脱臭装置、VOC処理装置、スクラバー等	10,004	10,004	10,004	1.7%
	給水供給	給水供給設備、RO装置等	345	345	345	0.1%
	輸送	フォークリフト、重機、屋内用車両等	307,587	307,587	307,587	50.4%
	倉庫	倉庫等	4,000	4,000	4,000	0.7%
	建物	外気	建物外気からの	4,000	4,000	0.7%